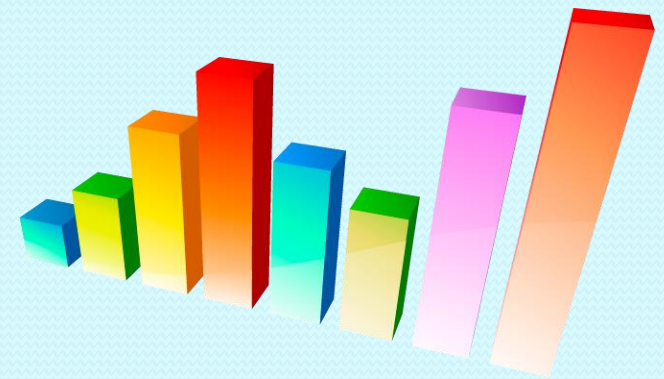


平成28年10－12月期の産業活動

輸送機械工業が全体のけん引役となり
3四半期連続で前期比プラスとなった鉱工業生産、
卸売業や生活娯楽関連サービスの低下を受けて
4四半期ぶりに前期比マイナスの第3次産業活動



経済産業省
経済解析室

平成29年3月

本稿における留意事項

1. 本稿における年の表示は和暦であり、元号は特記しない限り原則として平成である。
2. 四半期別伸び率寄与度は、特記しない限り前期比伸び率に対する寄与度である。なお、個々の系列毎に季節調整を行っているため、内訳の寄与度の積み上げと全体の伸び率は一致しないことがある。

目次

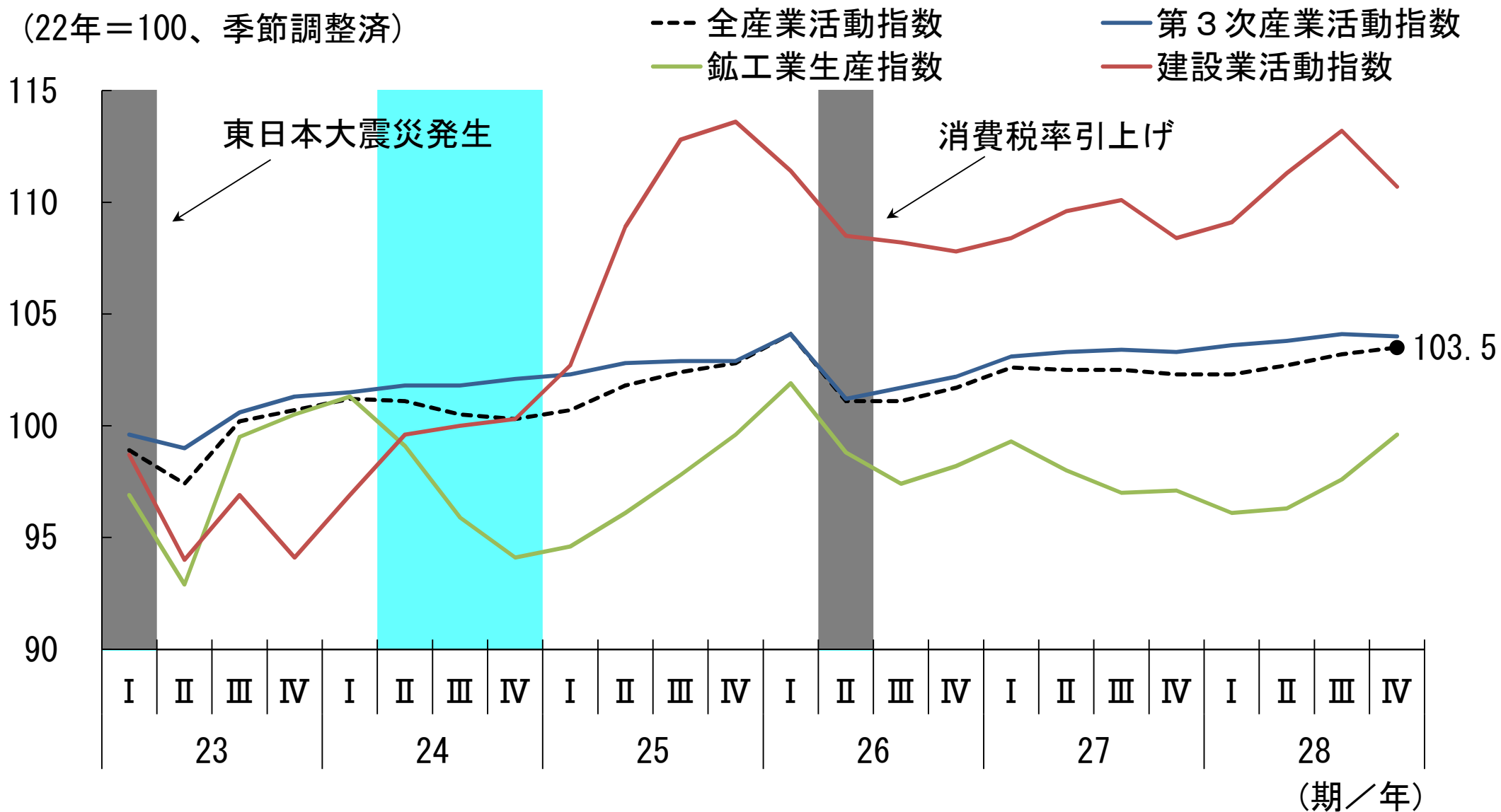
全産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	1 ページ
鉱工業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	7 ページ
第3次産業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	33 ページ
建設業活動の動向	・ ・ ・ ・ ・	54 ページ

全産業活動の動向

全産業活動指数の動向

・平成28年10-12月期の全産業活動指数は103.5(前期比0.3%)と3期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

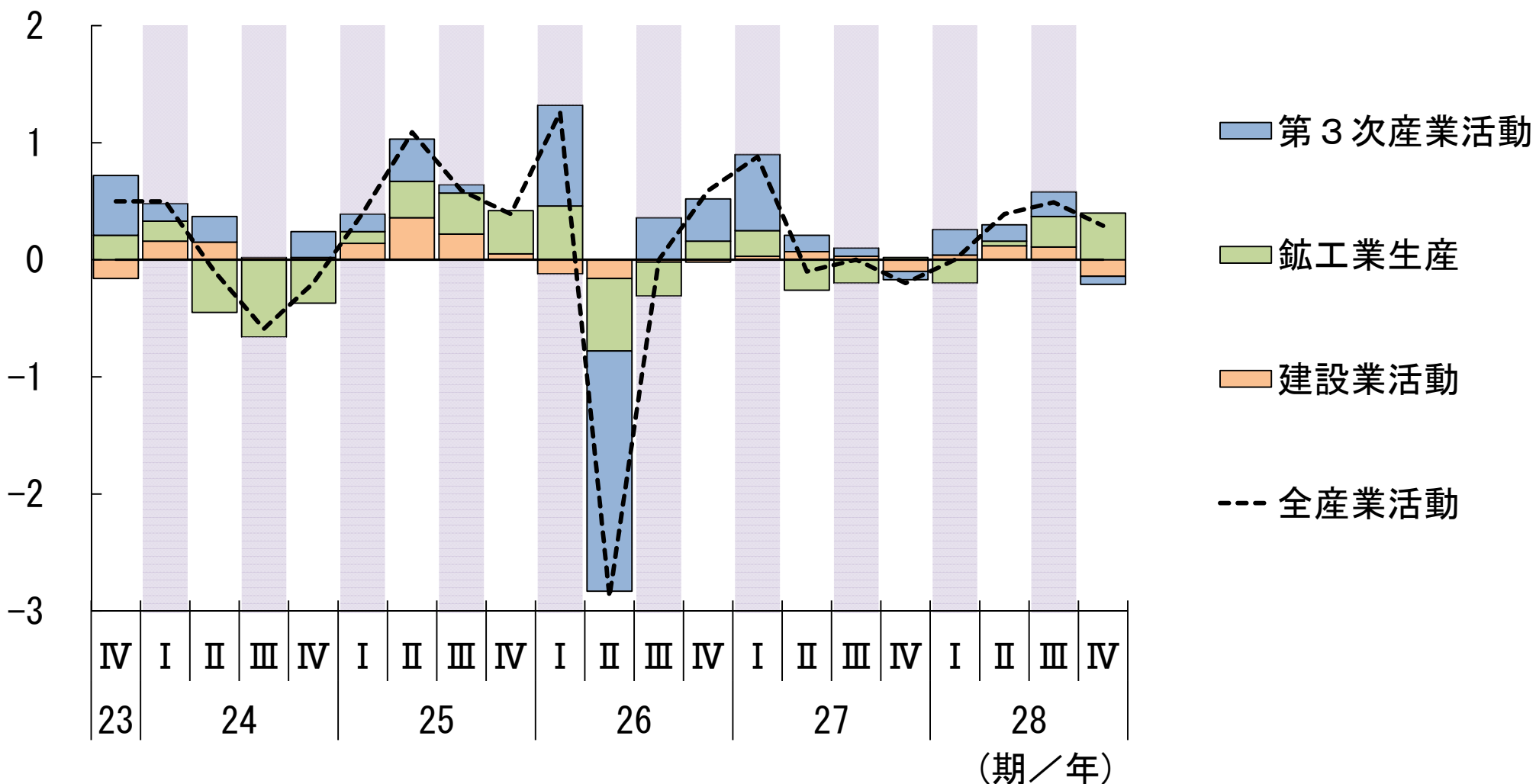


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

全産業活動指数前期比 産業活動別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の全産業活動指数は建設業活動などが低下したものの、鉱工業生産が上昇したため、前期比0.3%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

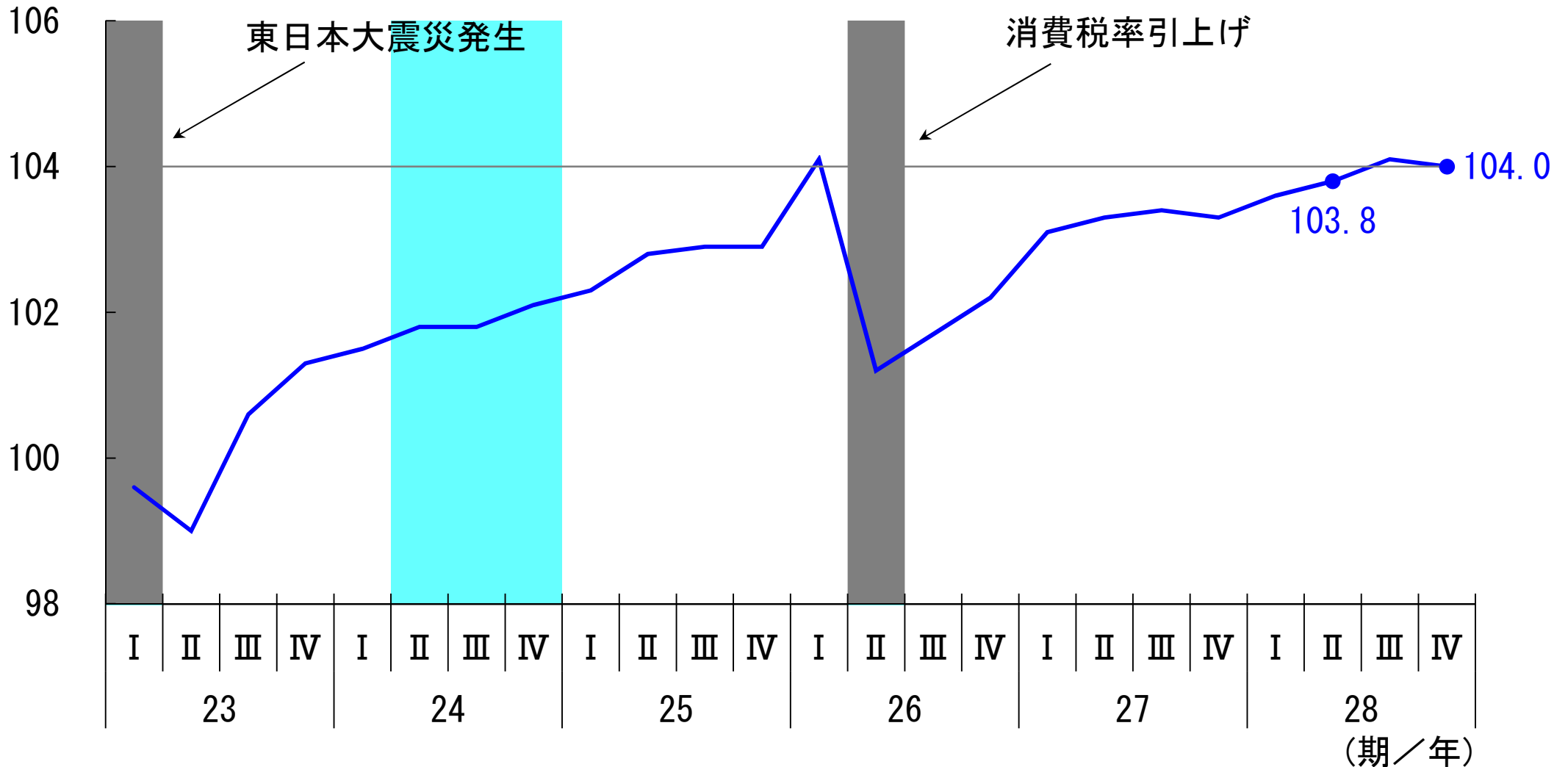


(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

第3次産業活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期の第3次産業活動指数は104.0(前期比-0.1%)と4期ぶりの低下。
- ・平成28年4-6月期の103.8以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

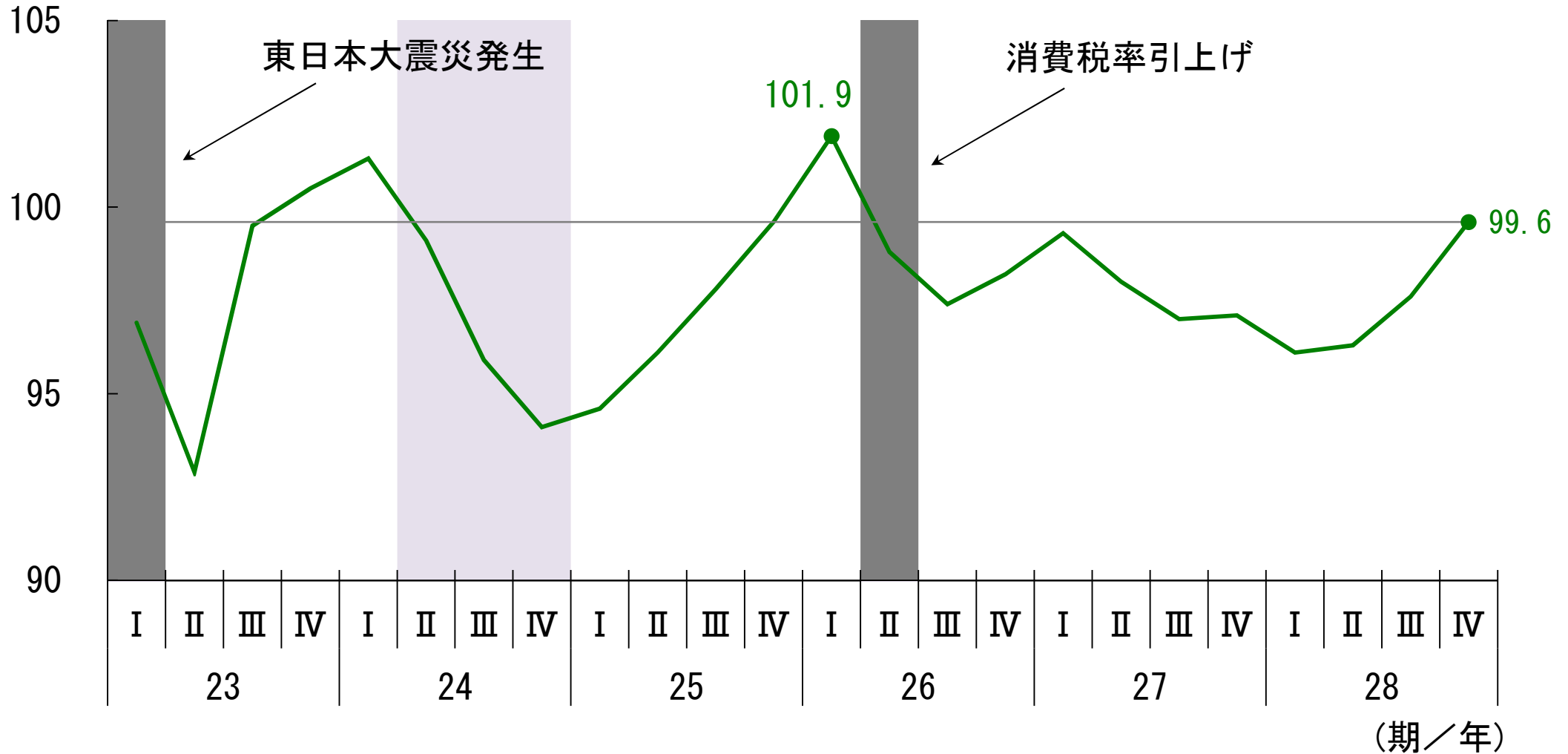


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

鋳工業生産指数の動向

- ・平成28年10-12月期の鋳工業生産指数は99.6(前期比2.0%)と3期連続の上昇。
- ・平成26年1-3月期の101.9以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



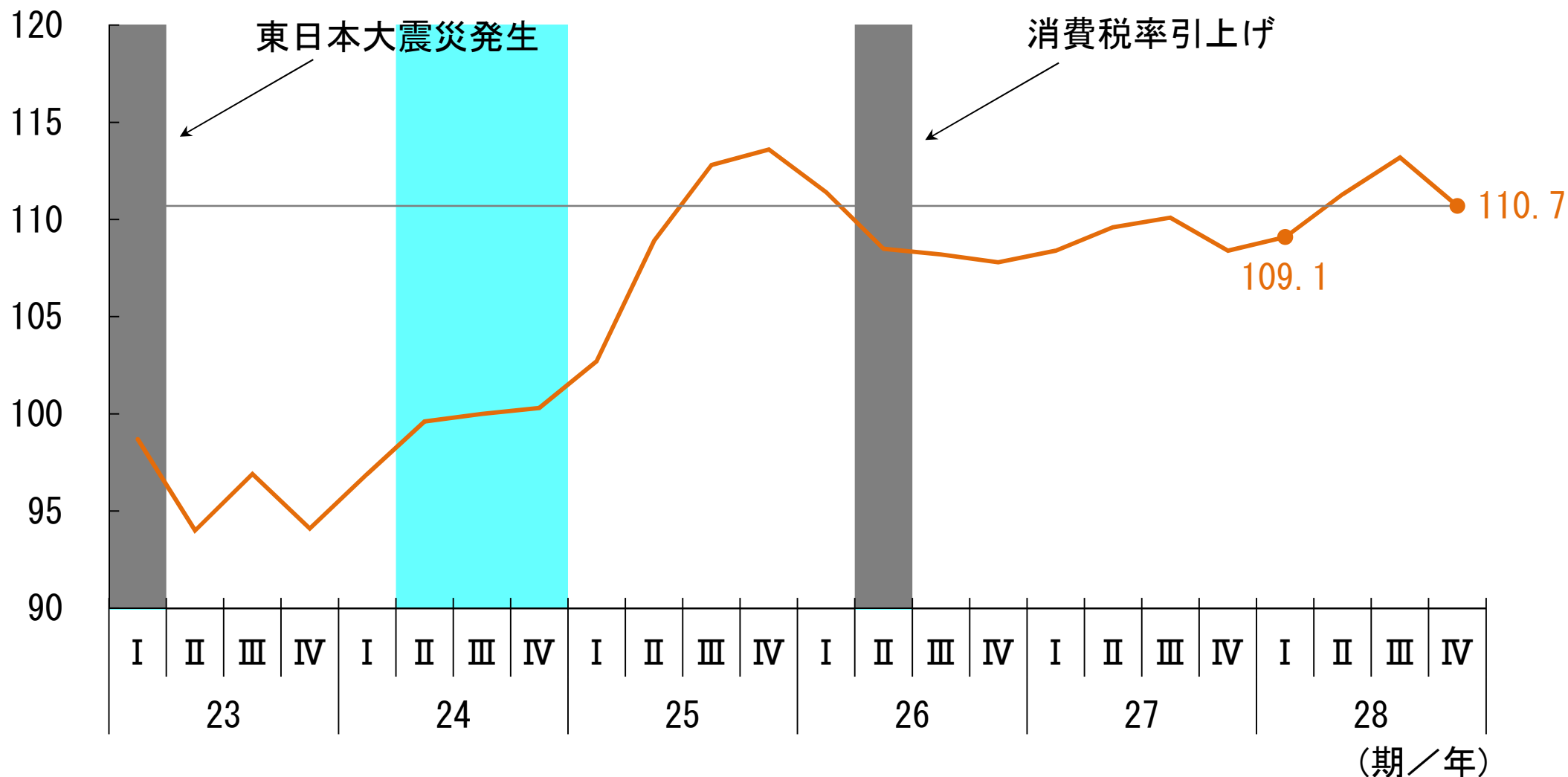
(注) 1. 鋳工業指数(IIP)とは、月々の鋳工業の生産、出荷、在庫等を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもので、事業所の生産活動、製品の需給動向など鋳工業全体の動きを示す代表的な指標。
 2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

建設業活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期の建設業活動指数は110.7(前期比-2.2%)と4期ぶりの低下。
- ・平成28年1-3月期の109.1以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

鉦工業活動の動向

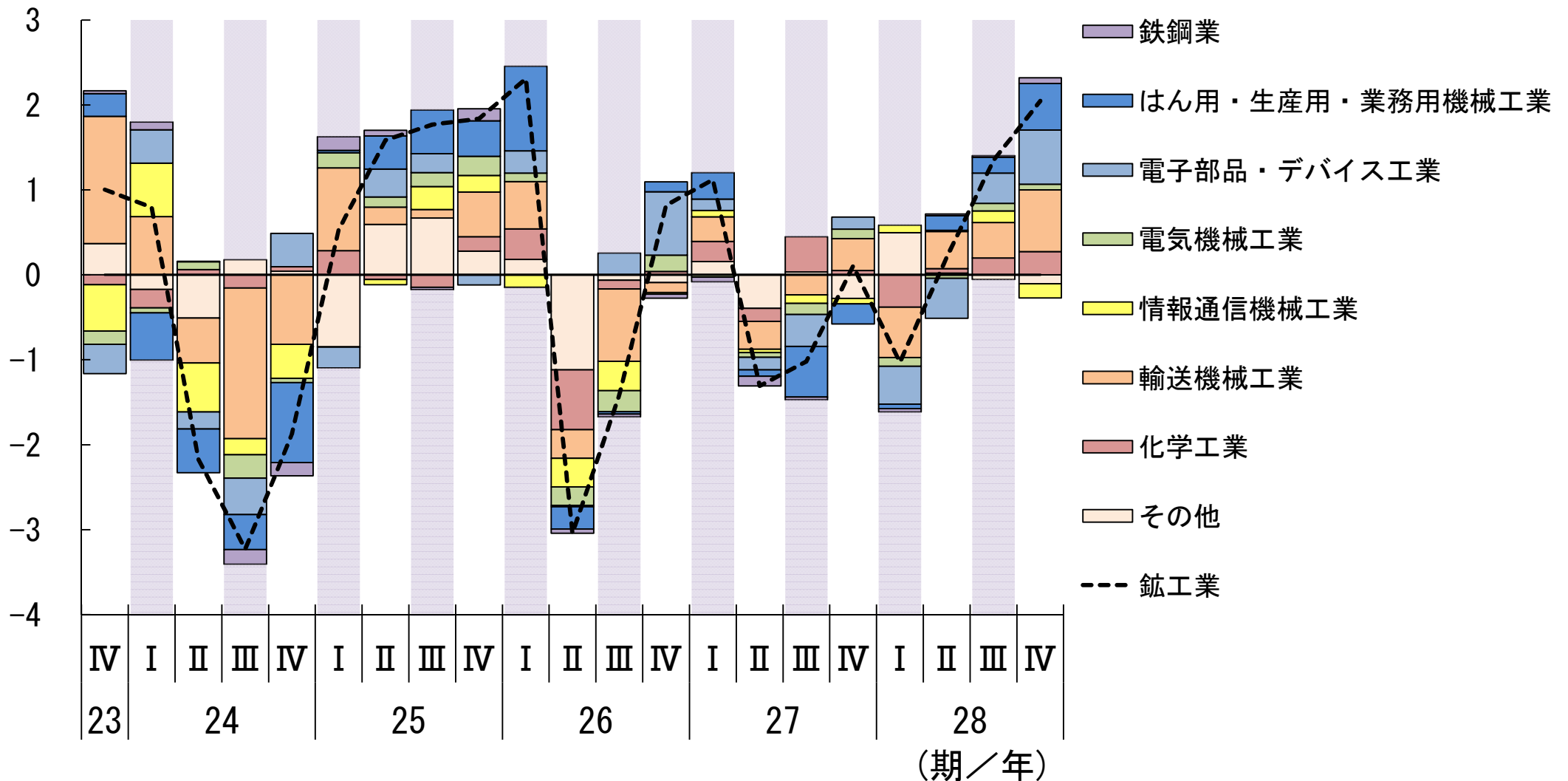
平成28年10-12月期の鉱工業活動の状況

指数名	指数水準	前期比(%)	指数の動き	過去の水準
鉱工業生産指数	99.6	2.0	3期連続の上昇	平成26年1-3月期の101.9以来
鉱工業出荷指数	98.8	3.3	3期連続の上昇	平成26年1-3月期の101.7以来
輸出向け	102.9	5.5	2期連続の上昇	平成27年1-3月期の103.2以来
国内向け	98.1	2.9	3期連続の上昇	平成26年1-3月期の102.8以来
鉱工業総供給指数	101.5	2.6	2期連続の上昇	平成26年1-3月期の106.4以来
国産	98.4	3.1	3期連続の上昇	平成26年1-3月期の102.8以来
輸入	114.7	2.6	2期連続の上昇	平成28年1-3月期の117.2以来
鉱工業在庫指数	107.5	-3.1	3期連続の低下	平成26年1-3月期の106.8以来
鉱工業在庫率指数	110.5	-4.2	2期連続の低下	平成26年4-6月期の108.7以来
製造工業生産能力指数	94.5	0.0	横ばい	-
機械工業	95.9	0.2	4期ぶりの上昇	平成27年1-3月期の96.2以来
非機械工業	92.5	-0.2	21期連続の低下	平成22年基準最低水準
製造工業稼働率指数	100.2	3.1	2期連続の上昇	平成27年1-3月期の101.4以来
機械工業	100.2	4.0	2期連続の上昇	平成27年1-3月期の102.9以来
非機械工業	100.2	1.8	2期連続の上昇	平成26年1-3月期の100.5以来

鋳工業生産指数前期比 業種別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の生産指数は情報通信機械工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前期比2.0%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

平成28年10-12月期の鉱工業生産指数を大きく動かした品目(全体・業種別)

<全体>

		品目名	前期比(%)	寄与率(%)
鉱工業生産を上昇方向 に引っ張った3品目	1位	乗用車	6.1	22.9
	2位	自動車部品	5.4	18.2
	3位	電子部品	9.1	17.4
鉱工業生産を低下方向 に引っ張った3品目	1位	半導体・フラットパネル製造装置	-7.3	-8.4
	2位	電子計算機	-12.5	-7.6
	3位	トラック	-5.1	-3.4

<業種別>

		業種・品目名	前期比(%)	寄与率(%)
鉱工業生産を上昇方向へ 引っ張った3業種の中で 上昇への影響度が大きい 2品目	1位の業種	輸送機械工業	3.7	35.4
	品目	乗用車	6.1	22.9
		自動車部品	5.4	18.2
	2位の業種	電子部品・デバイス工業	8.0	31.1
	品目	電子部品	9.1	17.4
		集積回路	8.7	13.2
鉱工業生産を低下方向へ 引っ張った3業種の中で 低下への影響度が大きい 2品目	3位の業種	はん用・生産用・業務用機械工業	3.7	26.7
	品目	ボイラ・原動機	19.4	8.3
		産業用ロボット	14.7	6.7
	1位の業種	情報通信機械工業	-6.3	-8.2
	品目	電子計算機	-12.5	-7.6
		その他の情報通信機械	-14.6	-1.4
	2位の業種	繊維工業	-1.4	-1.2
	品目	化学繊維	-5.0	-0.8
		衣類	-3.1	-0.5
	3位の業種	石油・石炭製品工業	-1.4	-1.1
品目	石油製品	-1.4	-1.1	

寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、各品目の影響の度合い。全93業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

平成28年10-12月期の鉱工業生産前期比 財別・業種別の影響度合い

財別分類	解説	財別分類・業種名	前期比(%)	寄与率(%)
鉱工業用生産財	鉱工業製品の原材料として投入される製品	鉱工業用生産財	3.5	78.3
		電子部品・デバイス工業	7.9	30.3
		輸送機械工業	3.4	14.3
資本財（除. 輸送機械）	クレーンや金属工作機械など設備投資に向けられる製品	資本財（除. 輸送機械）	3.0	23.0
		はん用・生産用・業務用機械工業	4.5	23.7
		電気機械工業	1.1	1.4
耐久消費財	テレビや電気冷蔵庫など家計で購入される製品	耐久消費財	2.8	14.3
		輸送機械工業	6.6	22.5
		その他工業	0.0	0.0
建設財	鉄骨やセメントなど建設投資に向けられる製品	建設財	1.7	4.5
		金属製品工業	3.8	4.2
		窯業・土石製品工業	0.8	0.4
非耐久消費財	食料品や衣料品など家計で購入される製品	非耐久消費財	0.0	0.0
その他用生産財	鉱工業以外の製品の原材料として投入される製品	その他用生産財	-0.3	-0.7
		石油・石炭製品工業	-1.7	-0.7
		その他工業	-0.4	-0.5

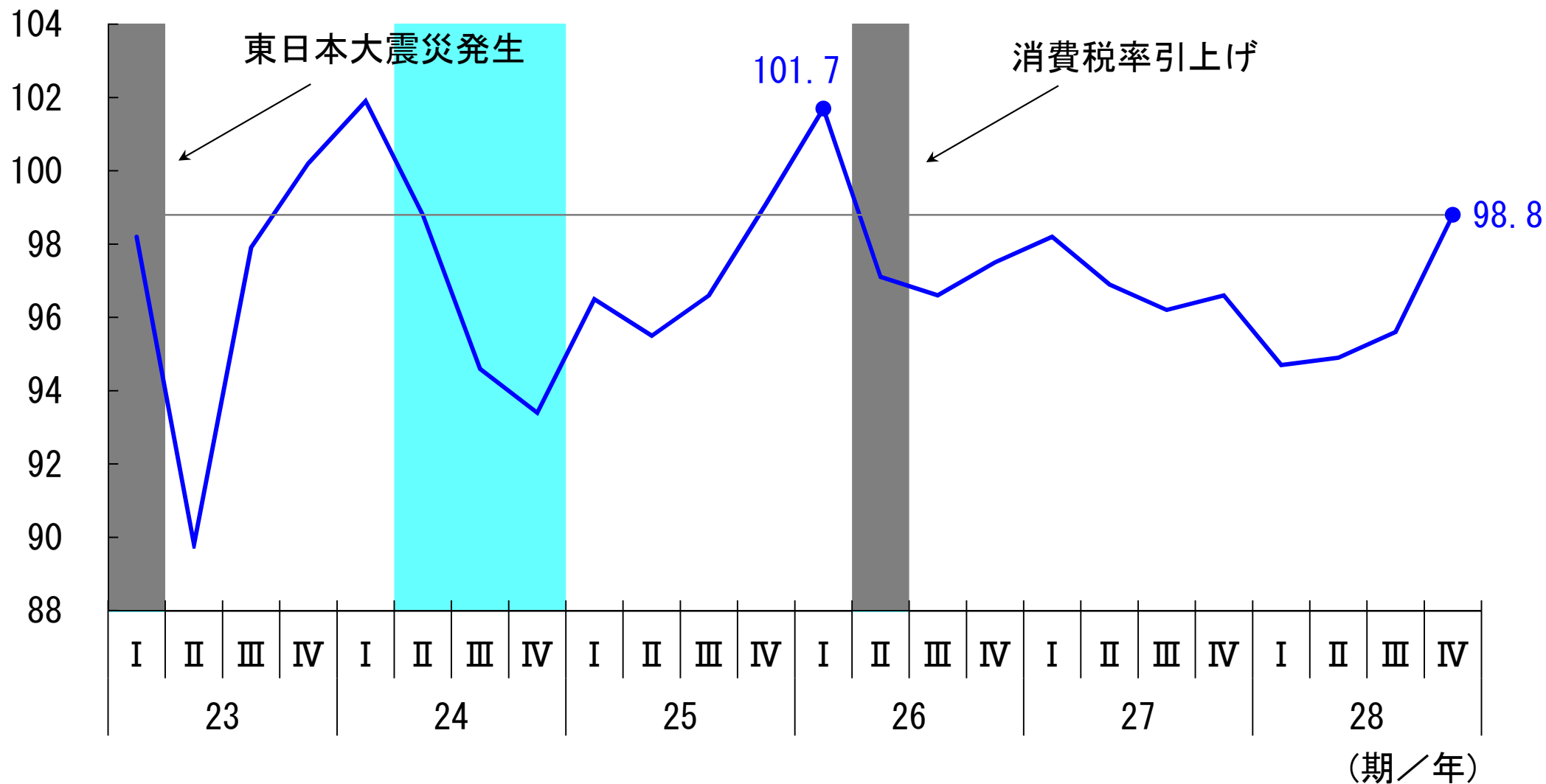
寄与率：生産全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「鉱工業指数」より作成。

鋳工業出荷指数の動向

- ・平成28年10-12月期の鋳工業出荷指数は98.8(前期比3.3%)と3期連続の上昇。
- ・平成26年1-3月期の101.7以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

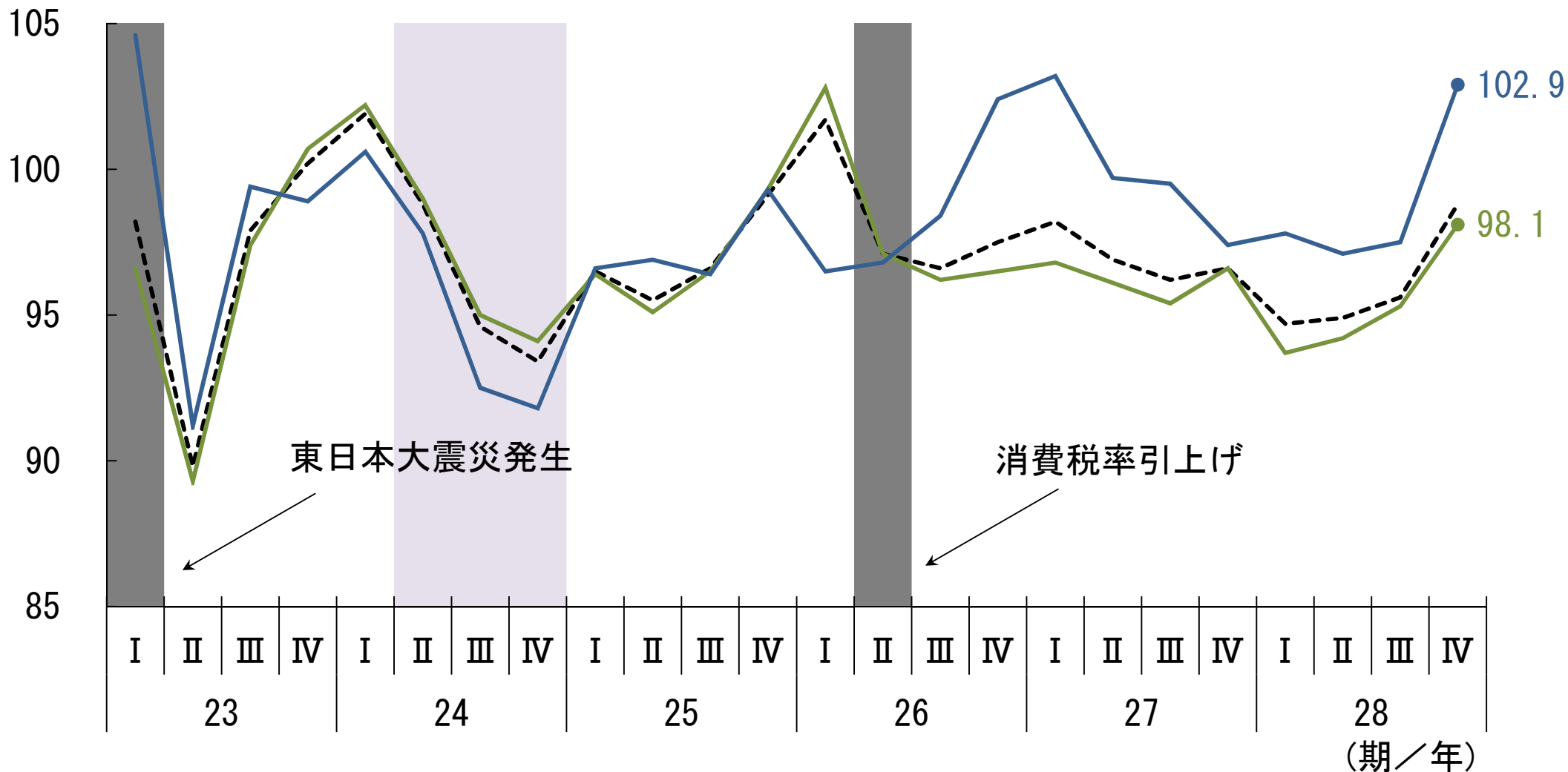
(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

国内向け／輸出向け出荷の動向

・平成28年10-12月期の鉱工業出荷を国内向け／輸出向け別にみると、国内向けは98.1(前期比2.9%)と3期連続の上昇、輸出向けは102.9(前期比5.5%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

--- 鉱工業出荷 — 国内向け — 輸出向け

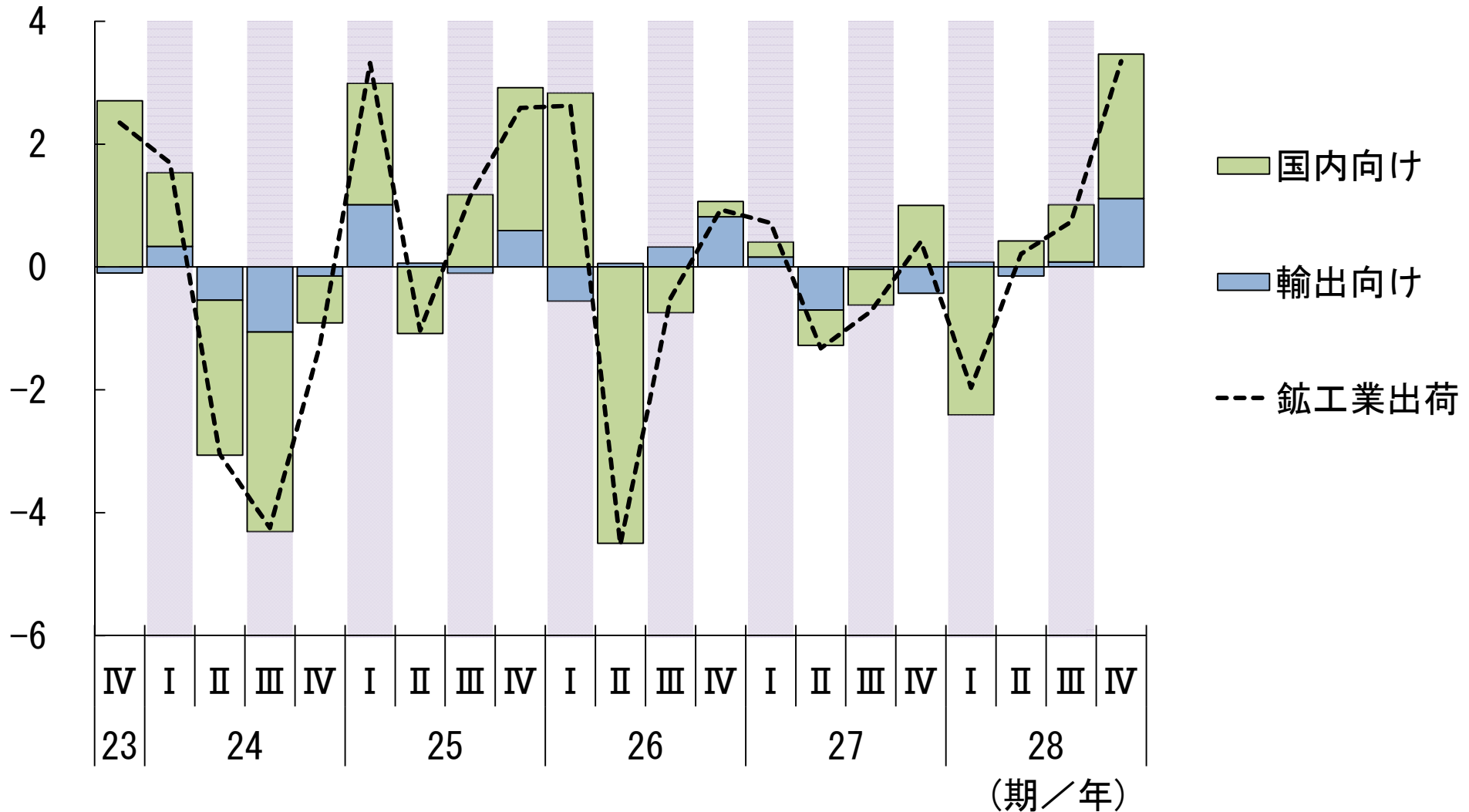


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

鉍工業出荷前期比 国内向け／輸出向け別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の鉍工業出荷は、国内向け、輸出向けともに上昇したため、前期比3.3%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

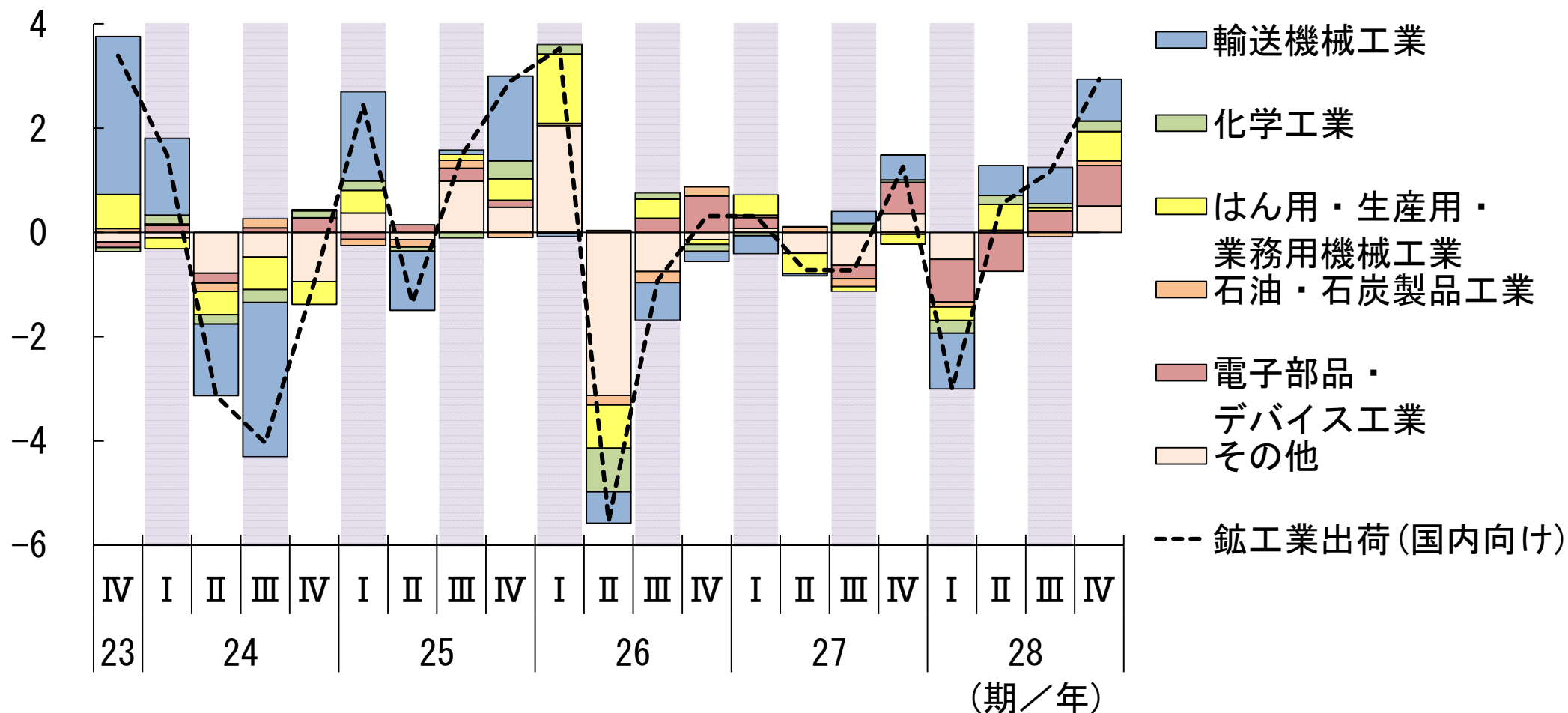


(資料) 経済産業省「鉍工業出荷内訳表」より作成。

国内向け出荷前期比 業種別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の国内向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(注)主要業種とは、国内向け出荷(ウェイト8028.51)のうち、ウェイトが大きい5業種を選定。

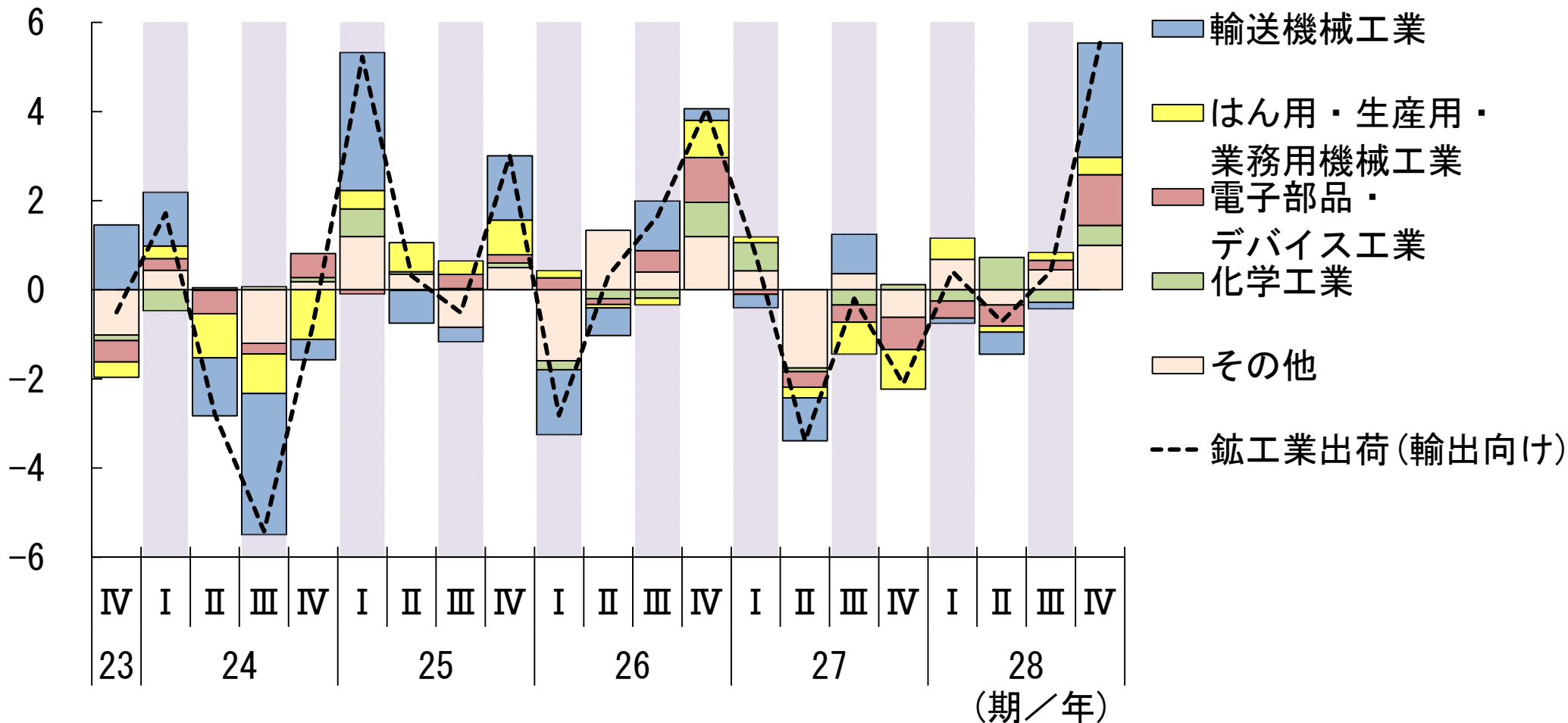
具体的には、輸送機械工業(国内向け、ウェイト1658.38)、化学工業(同、同860.84)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同796.12)、石油・石炭製品工業(同、同574.89)、電子部品・デバイス工業(同、同457.59)の5業種。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 業種別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の輸出向け出荷を、主要業種別にみると、輸送機械工業などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



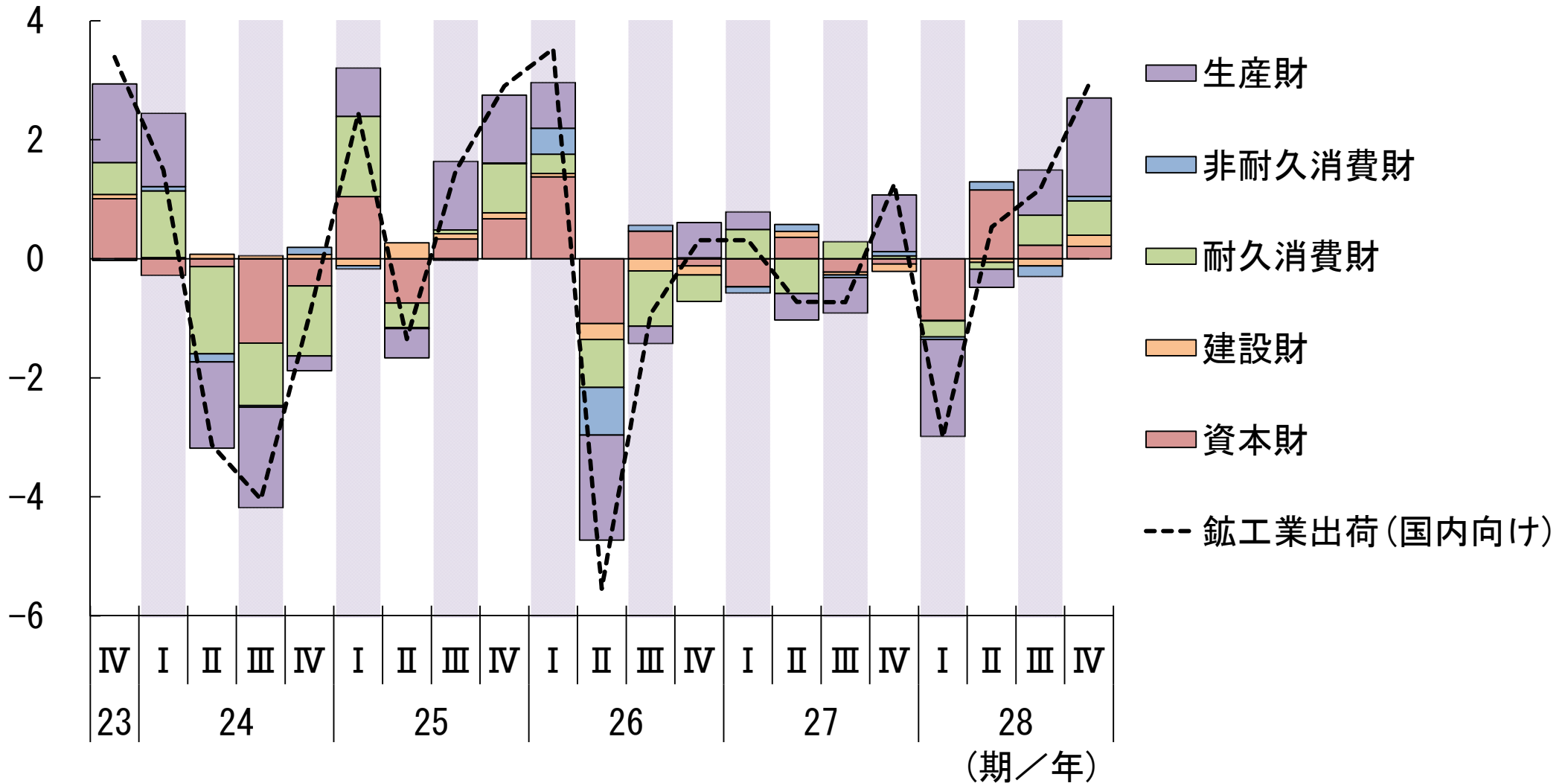
(注) 主要業種とは、輸出向け出荷(ウェイト1971.49)のうち、ウェイトが大きい業種(上位4業種)を選定。
 具体的には、輸送機械工業(輸出向け、ウェイト560.52)、はん用・生産用・業務用機械工業(同、同289.48)電子部品・デバイス工業(同、同253.51)、化学工業(同、同180.06)の4業種。

(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

国内向け出荷前期比 財別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の国内向け出荷を、財別にみると、生産財などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

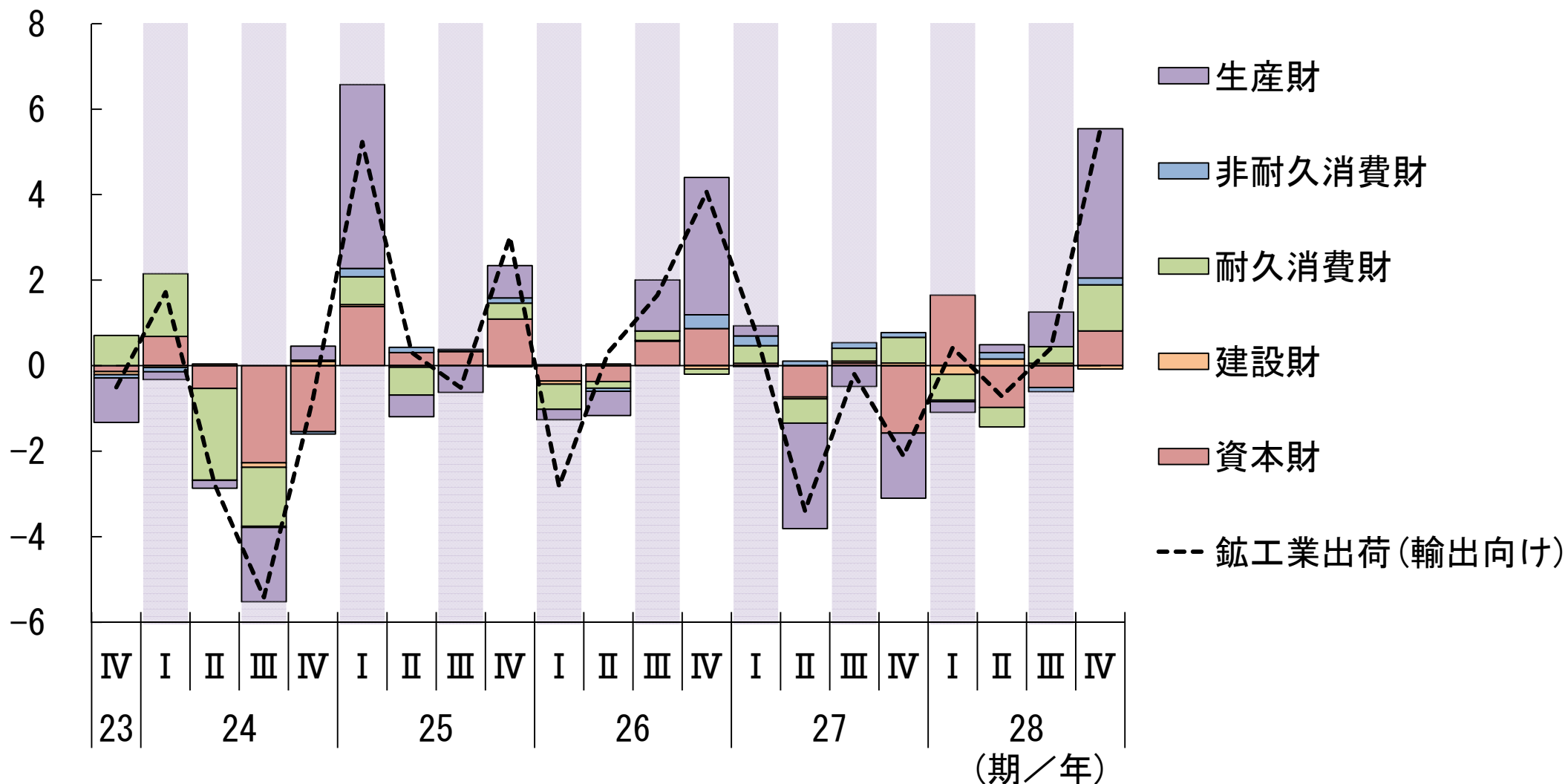


(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 財別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の輸出向け出荷を、財別にみると、建設財が低下したものの、生産財などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

平成28年10-12月期の国内向け出荷前期比 財別・業種別の影響度合い

財別分類	前期比(%)	寄与率(%)
鉱工業	2.9	70.2
鉱工業用生産財	3.7	38.1
電子部品・デバイス工業	11.6	18.4
鉄鋼業	5.8	7.3
耐久消費財	4.4	13.8
輸送機械工業	9.1	20.8
資本財	1.1	5.0
はん用・生産用・業務用機械工業	4.8	11.0
その他工業	2.9	0.2
建設財	2.9	4.4
金属製品工業	4.3	2.7
鉄鋼業	7.2	1.4
非耐久消費財	0.5	1.8
石油・石炭製品工業	1.2	0.7
食料品・たばこ工業	0.3	0.5
その他用生産財	1.0	1.3
石油・石炭製品工業	2.1	1.6
プラスチック製品工業	8.0	0.8

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(注)試算値。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

平成28年10-12月期の輸出向け出荷前期比 財別・業種別の影響度合い

財別分類	前期比(%)	寄与率(%)
鉱工業	5.5	33.3
鉱工業用生産財	5.8	20.4
電子部品・デバイス工業	9.9	6.8
輸送機械工業	8.7	6.0
耐久消費財	8.1	6.5
輸送機械工業	8.2	5.5
情報通信機械工業	18.6	0.9
資本財	4.2	4.9
輸送機械工業	10.6	3.3
はん用・生産用・業務用機械工業	2.2	1.4
その他用生産財	5.4	1.1
石油・石炭製品工業	4.9	0.5
化学工業	10.1	0.2
非耐久消費財	4.9	1.0
化学工業	9.4	0.9
その他工業	11.1	0.3
建設財	-3.8	-0.5
プラスチック製品工業	-9.5	-0.4
金属製品工業	-20.1	-0.2

寄与率：出荷全体の変動に対して影響を及ぼした、財別・業種別の影響の度合い。全ての寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

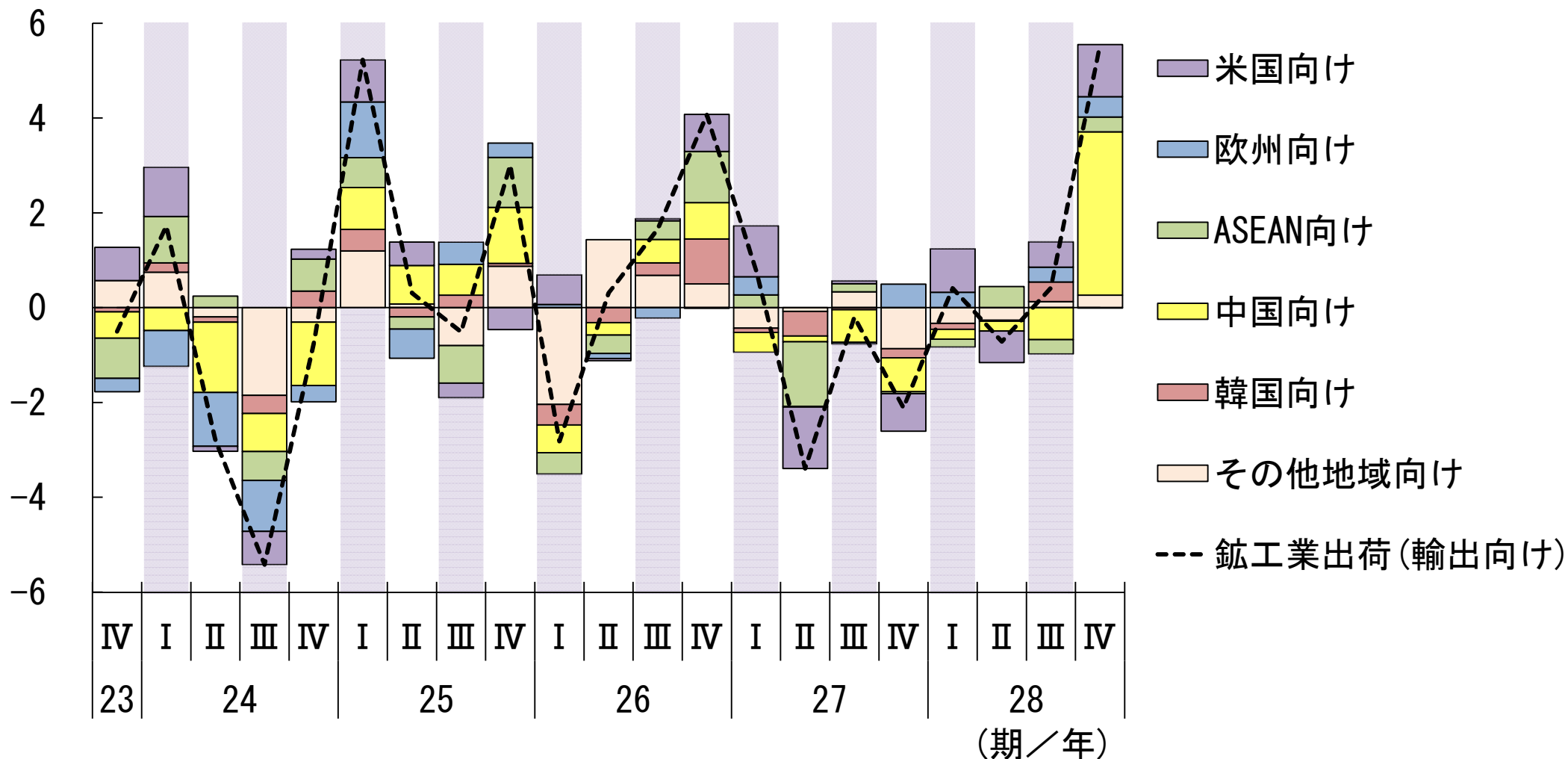
(注)試算値。

(資料)経済産業省「鉱工業出荷内訳表」より作成。

輸出向け出荷前期比 地域別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の輸出向け出荷を、地域別にみると、韓国向けが低下したものの、中国向けなどが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

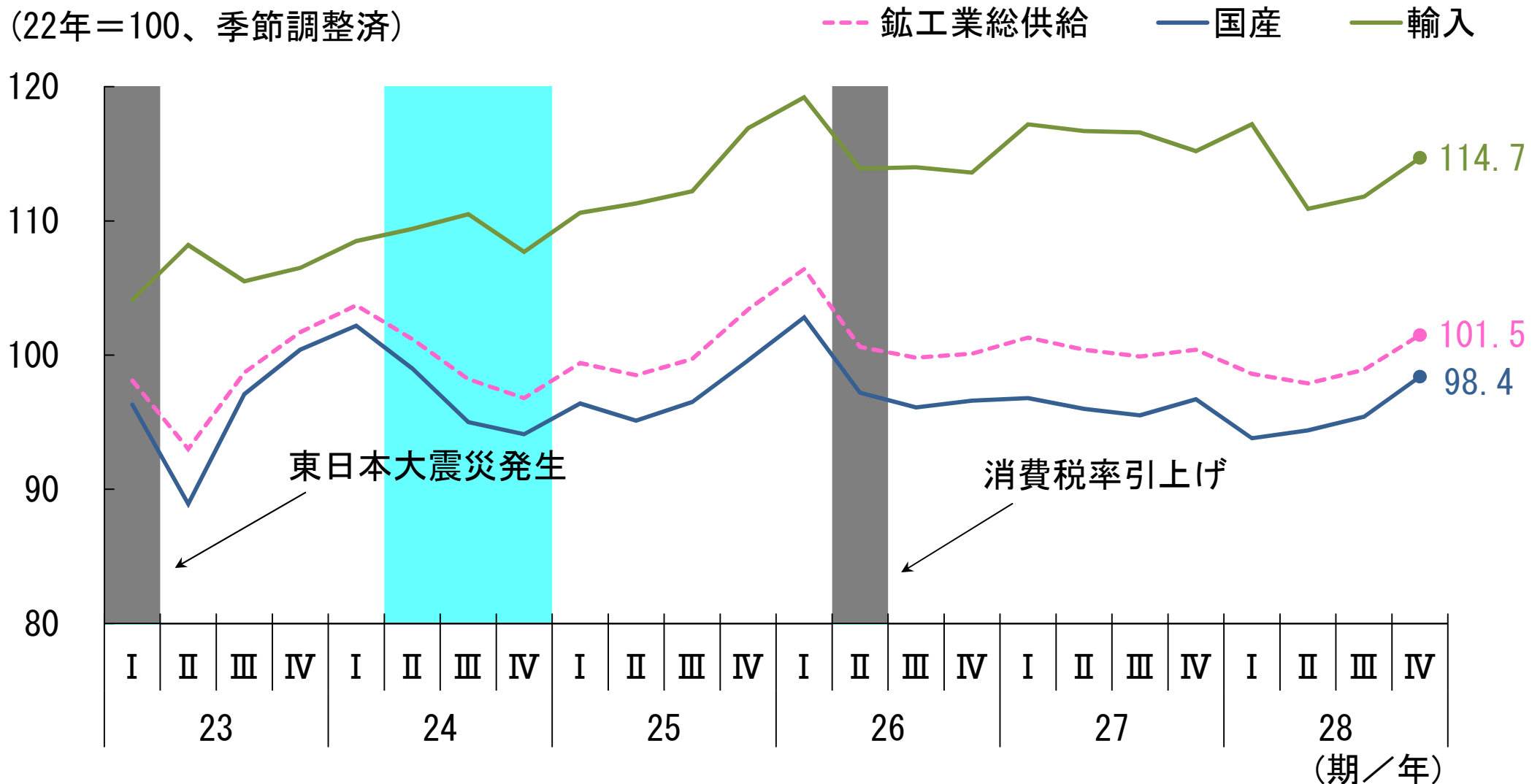


(注) 試算値。
 (資料) 経済産業省「鋳工業出荷内訳表」より作成。

鉍工業総供給指数の動向

- ・平成28年10-12月期の鉍工業総供給指数は101.5(前期比2.6%)と2期連続の上昇。
- ・内訳をみると、国産は98.4(前期比3.1%)と3期連続の上昇、輸入は114.7(前期比2.6%)と2期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)

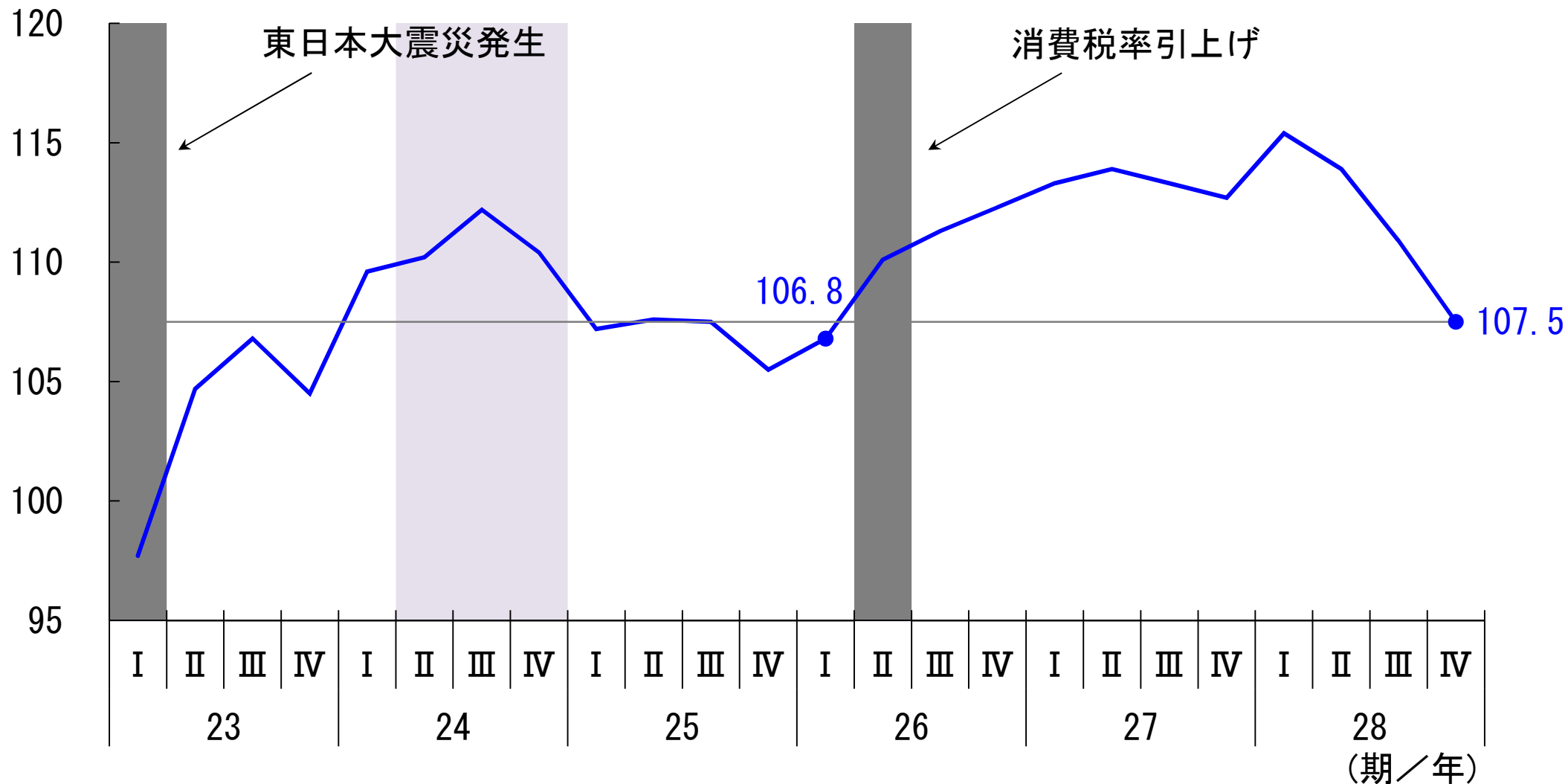


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「鉍工業総供給表」より作成。

鋳工業在庫指数の動向

- ・平成28年10-12月期の在庫指数は107.5(前期比-3.1%)と3期連続の低下。
- ・平成26年1-3月期の106.8以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)



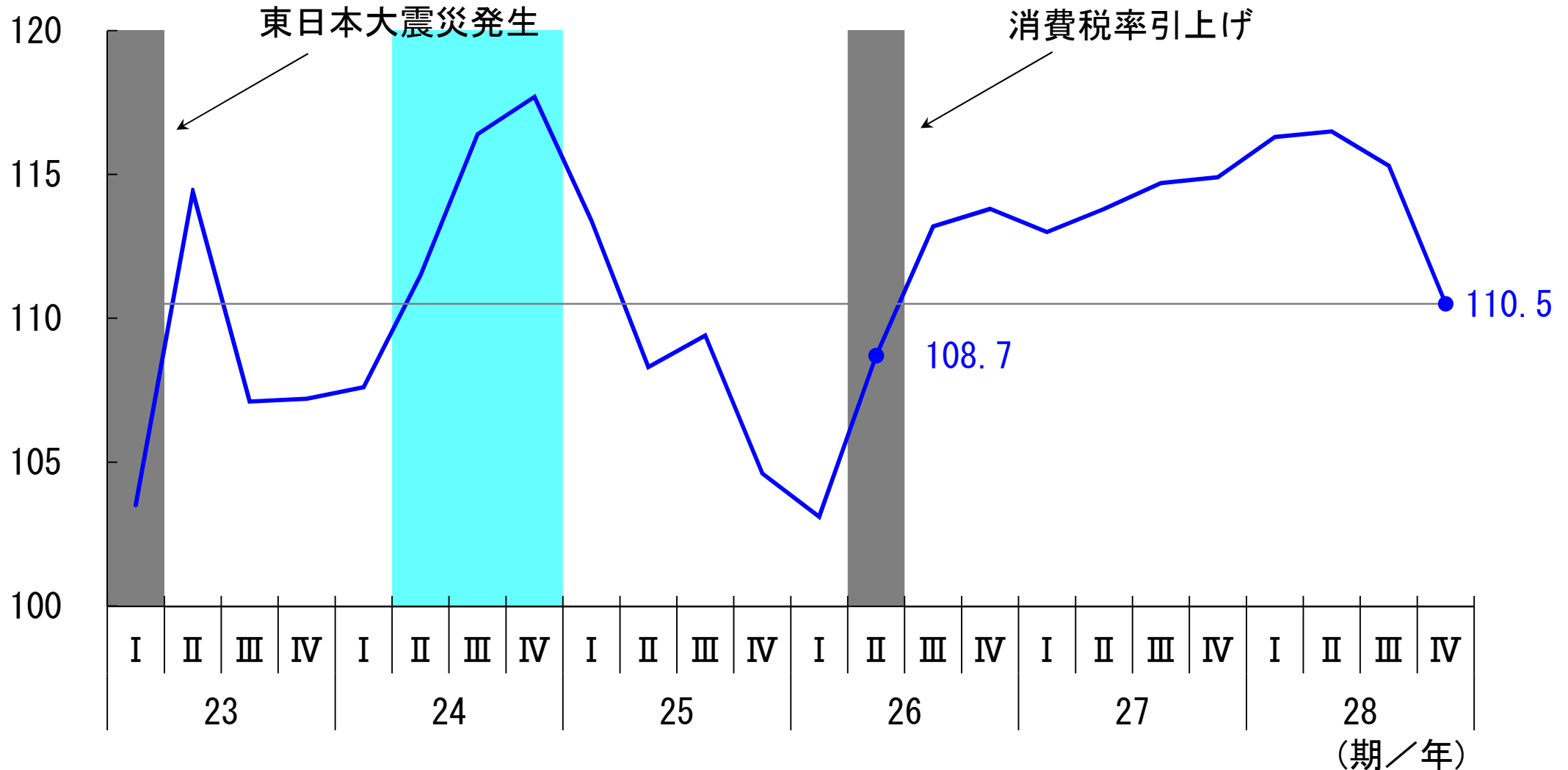
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

鋳工業在庫率指数の動向

- ・平成28年10-12月期の在庫率指数は110.5(前期比-4.2%)と2期連続の低下。
- ・平成26年4-6月期の108.7以来の指数水準。

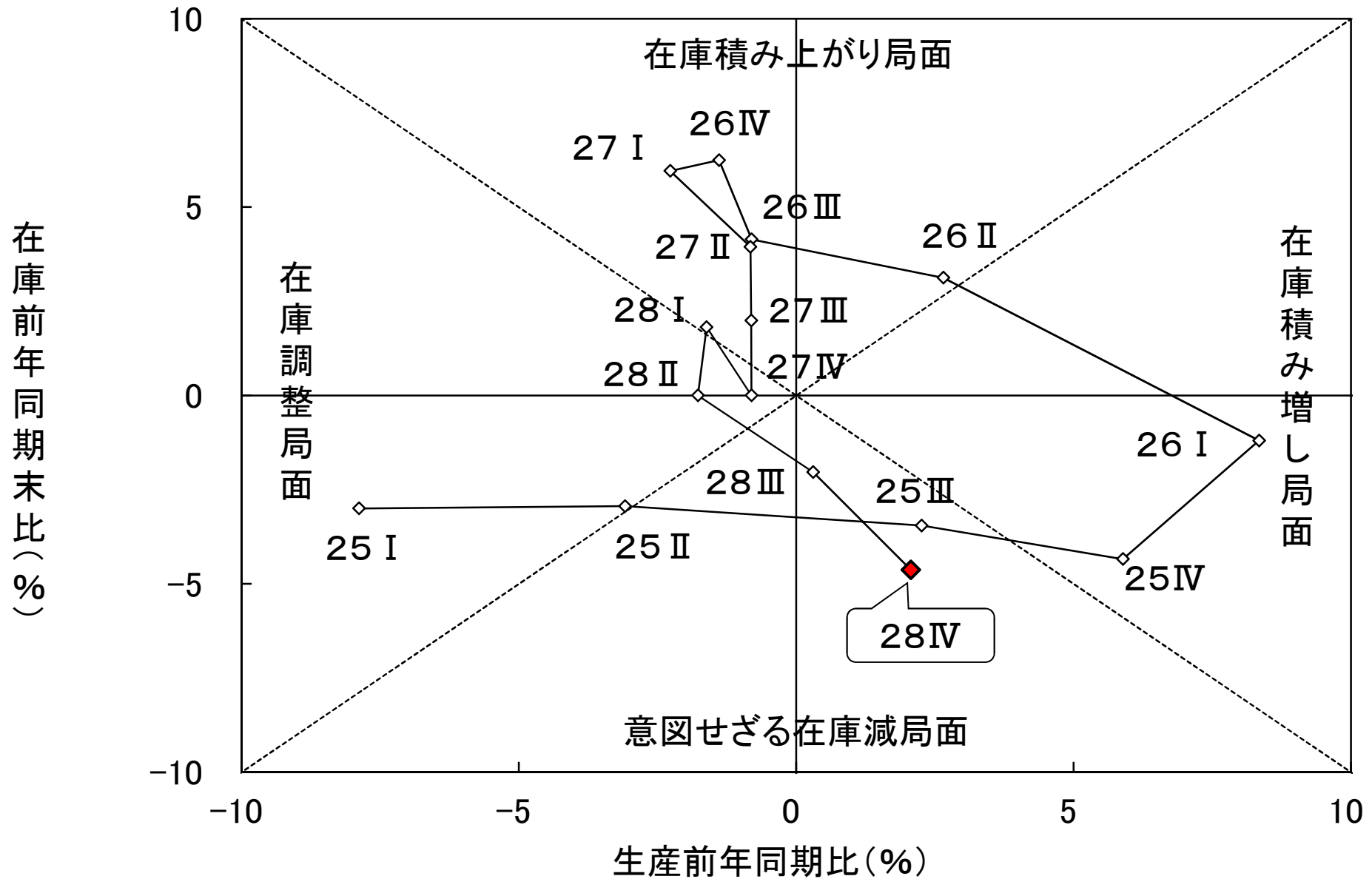
(22年=100、季節調整済)



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

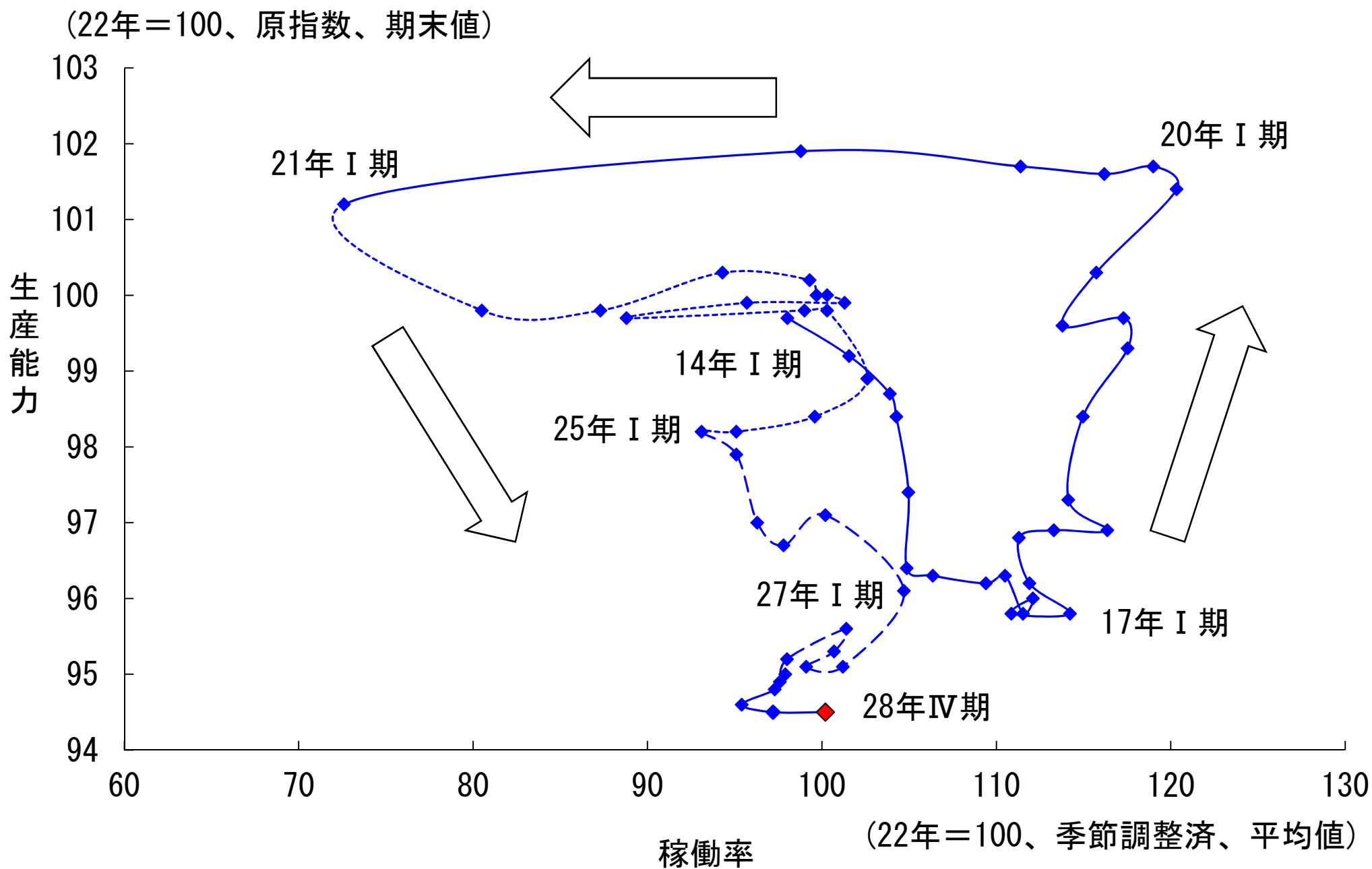
(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

鋳工業の在庫循環図



(資料) 経済産業省「鋳工業指数」より作成。

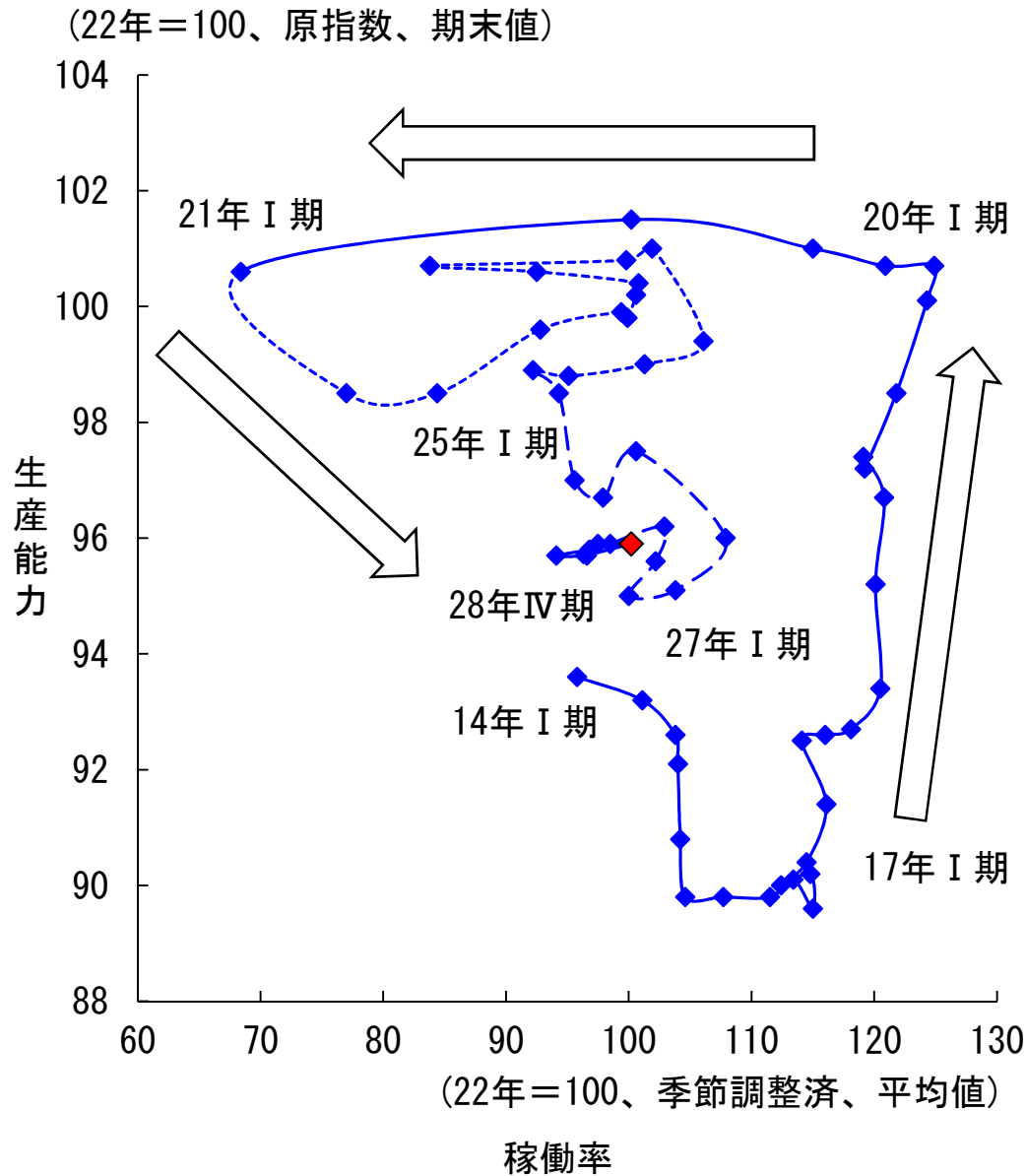
稼働率と生産能力の循環図(製造工業)



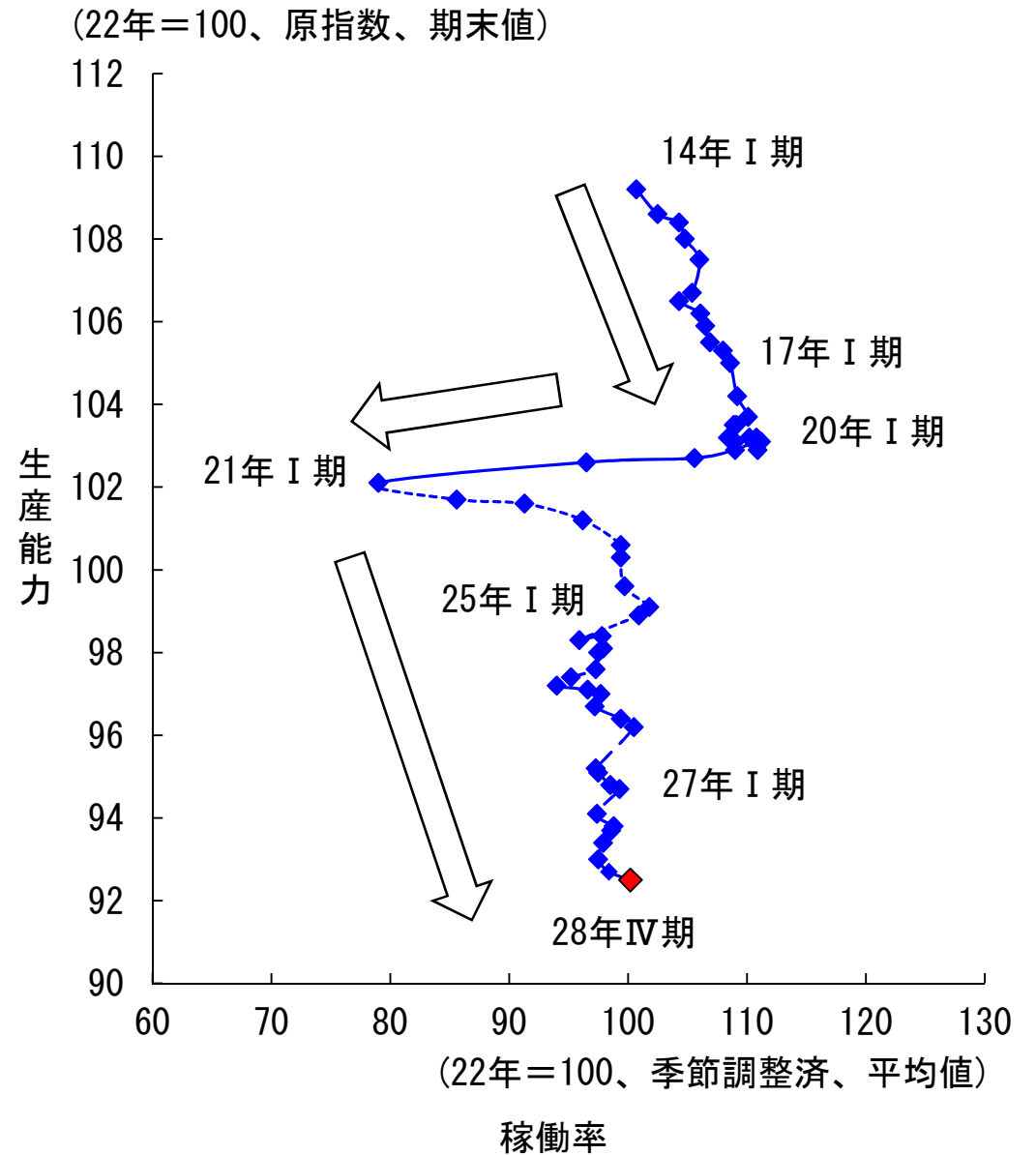
(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

稼働率と生産能力の循環図(機械工業、非機械工業)

機械工業



非機械工業

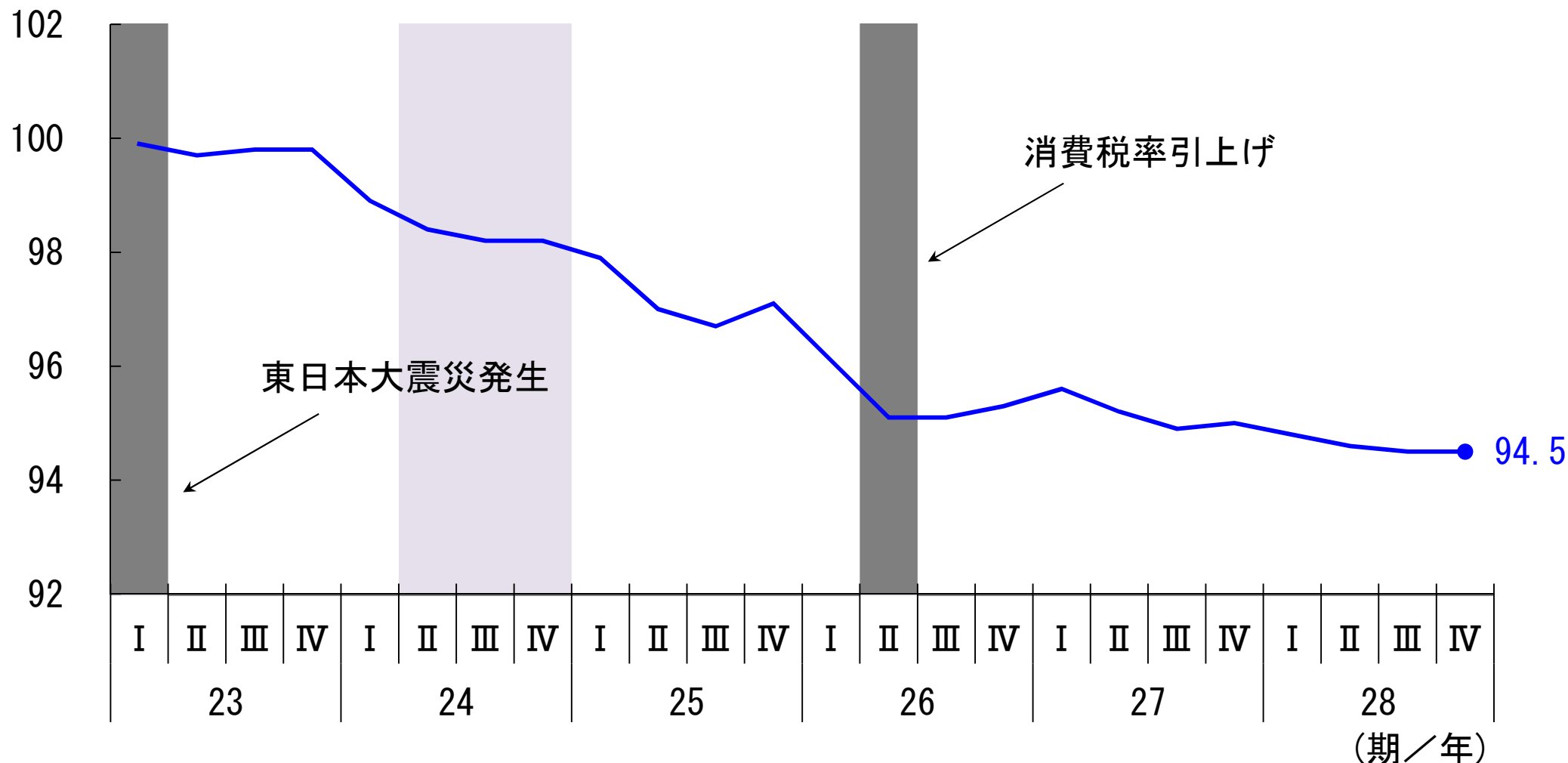


(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

製造工業生産能力指数の動向

・平成28年10-12月期の製造工業生産能力指数は94.5(前期比0.0%)と横ばい。

(22年=100、原指数)



(注)1. 製造工業生産能力指数とは、月々の製造工業の生産能力を基準年(現在は平成22年)の12か月平均=100として指数化したもの。

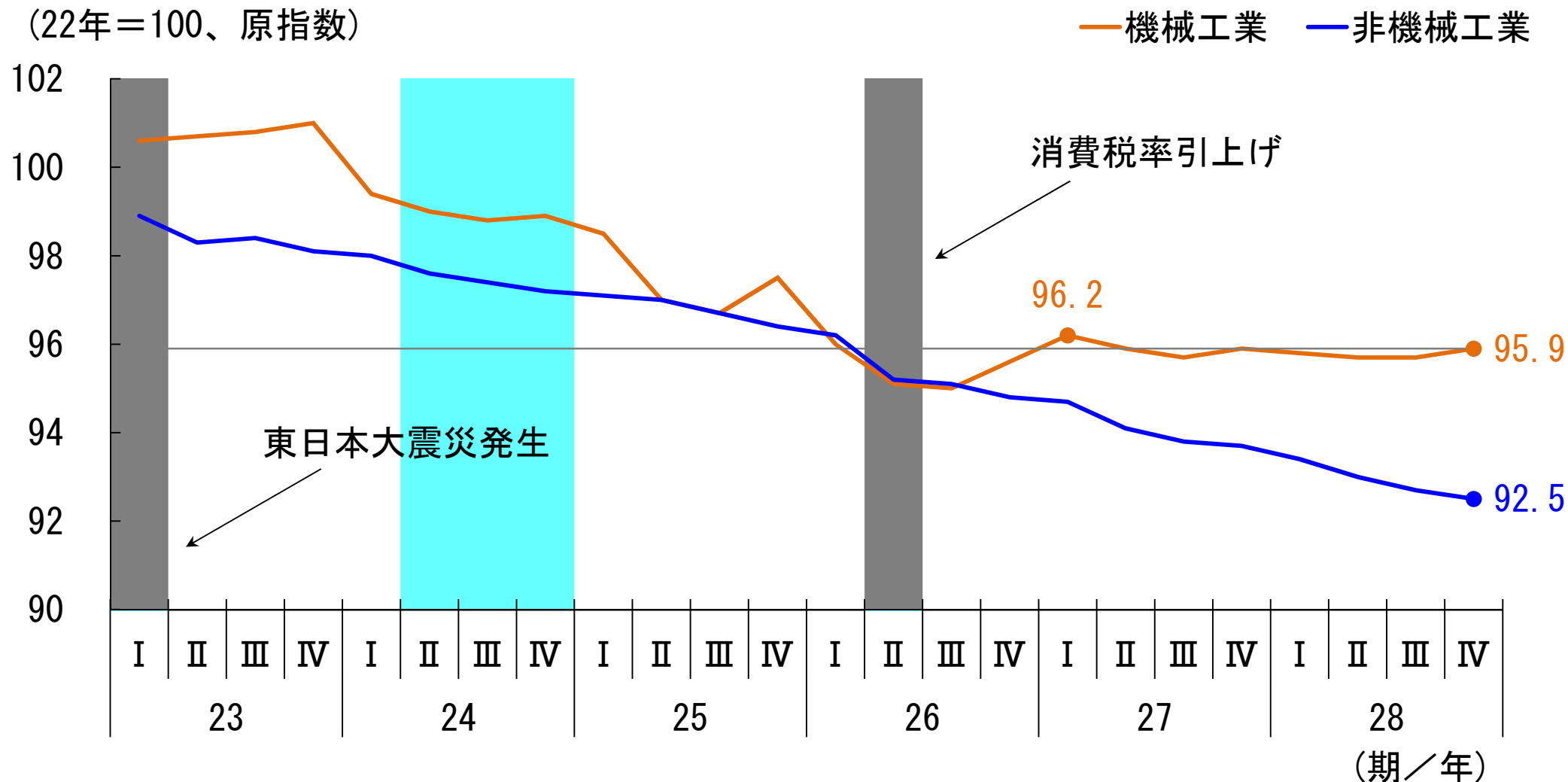
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

機械工業と非機械工業の生産能力指数の動向

- 平成28年10-12月期の機械工業の生産能力指数は95.9(前期比0.2%)と4期ぶりの上昇。
平成27年1-3月期の96.2以来の指数水準。
- 非機械工業の生産能力指数は92.5(前期比-0.2%)と21期連続の低下。

(22年=100、原指数)



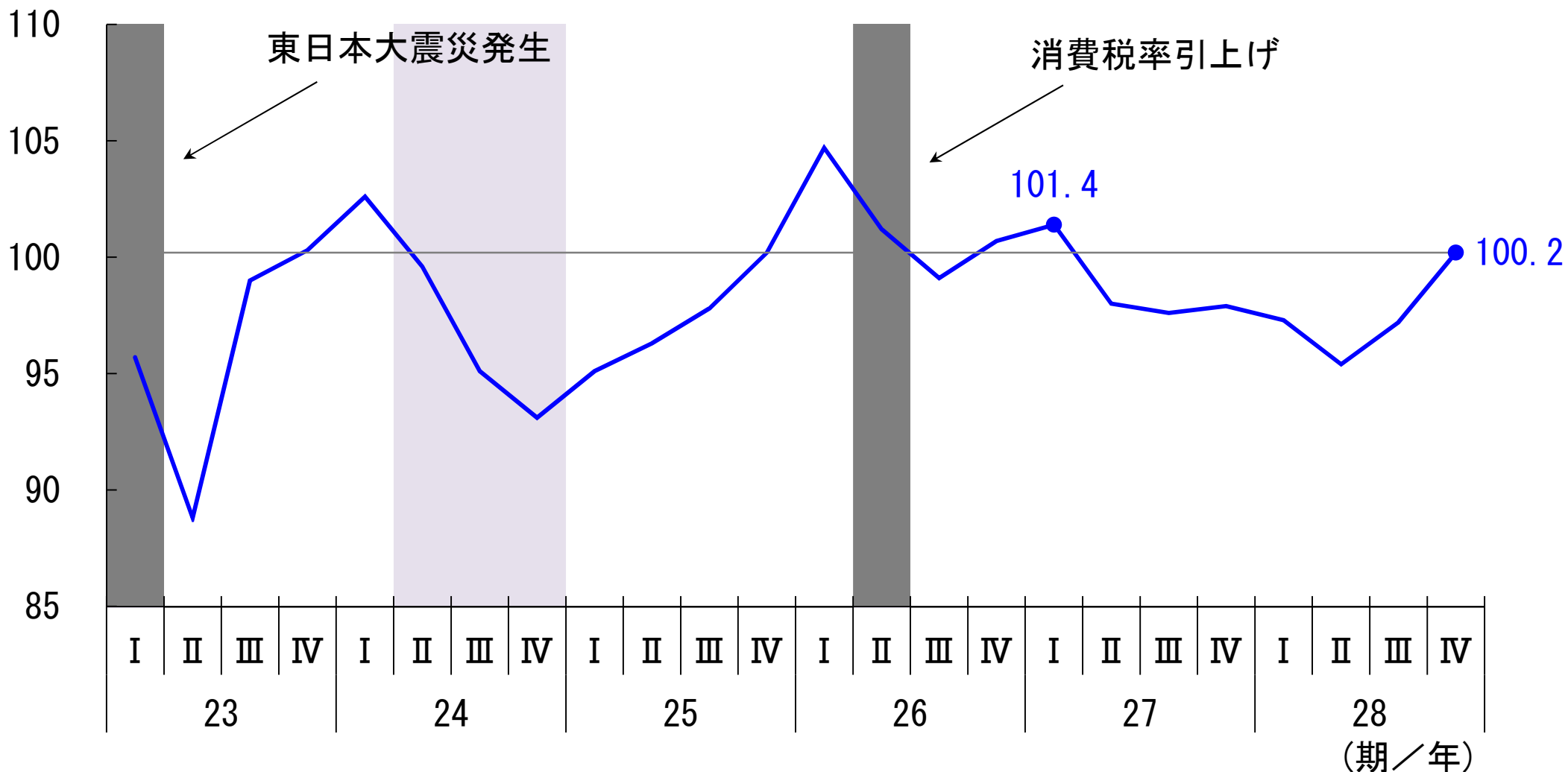
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

製造工業稼働率指数の動向

- ・平成28年10-12月期の製造工業稼働率指数は100.2(前期比3.1%)と2期連続の上昇。
- ・平成27年1-3月期の101.4以来の指数水準。

(22年=100、季節調整済)

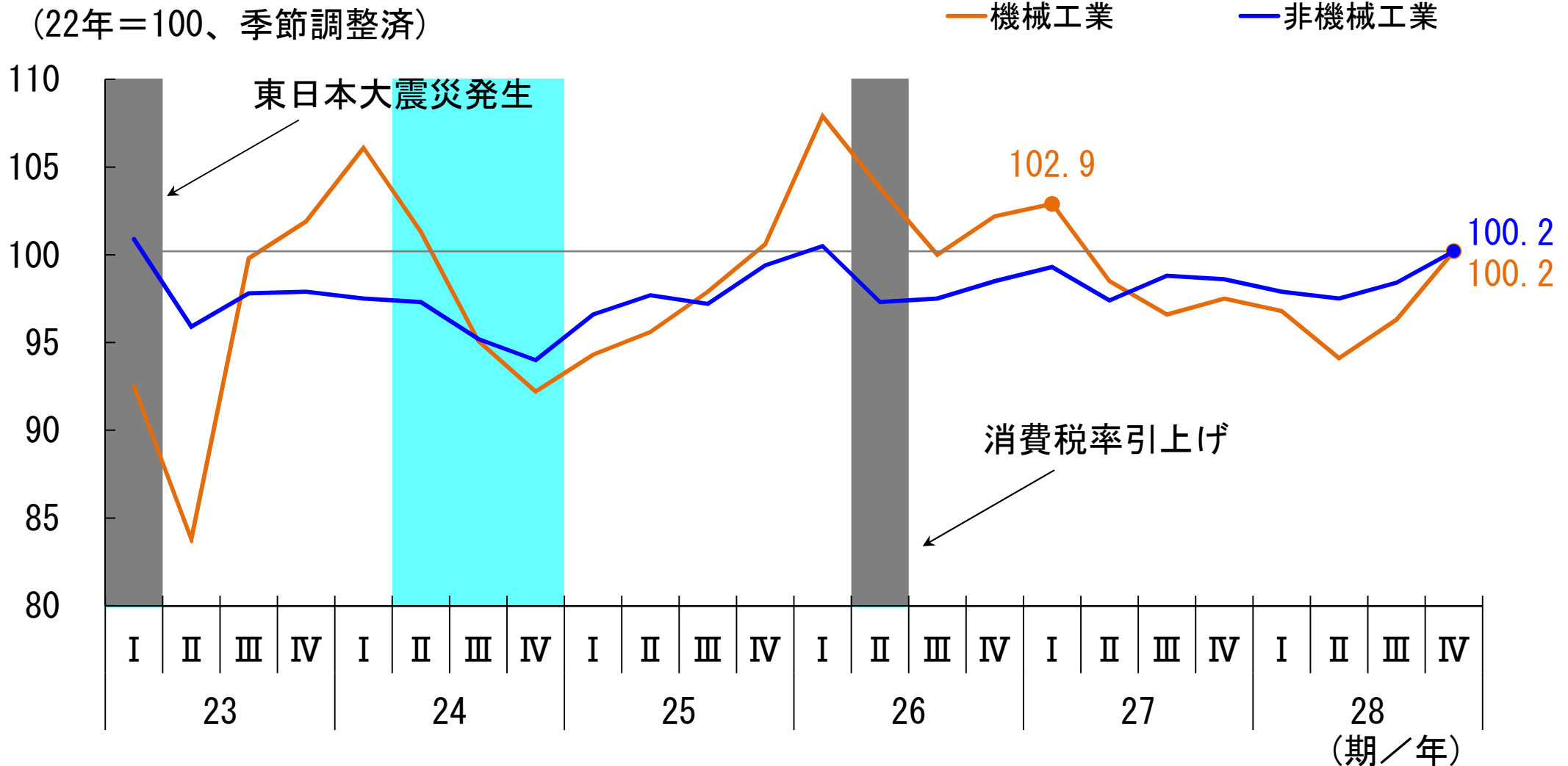


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

機械工業と非機械工業の稼働率指数の動向

- 平成28年10-12月期の機械工業の稼働率指数は100.2(前期比4.0%)と2期連続の上昇。
平成27年1-3月期の102.9以来の指数水準。
- 非機械工業の稼働率指数は100.2(前期比1.8%)と2期連続の上昇。



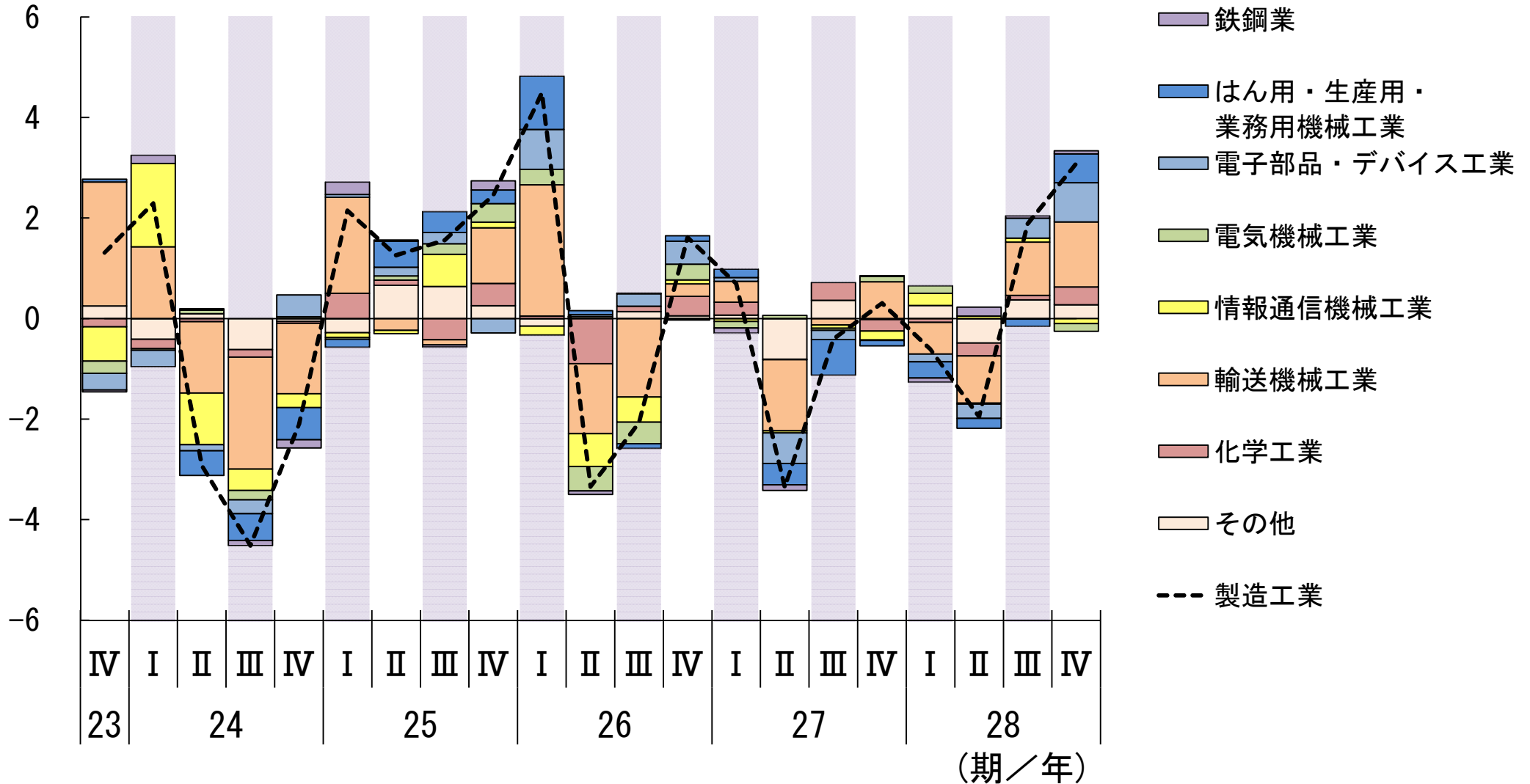
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面

(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

製造工業稼働率指数前期比 業種別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の製造工業稼働率指数は、電気機械工業などが低下したものの、輸送機械工業などが上昇したため、前期比3.1%の上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「製造工業生産能力・稼働率指数」より作成。

第3次産業活動の動向

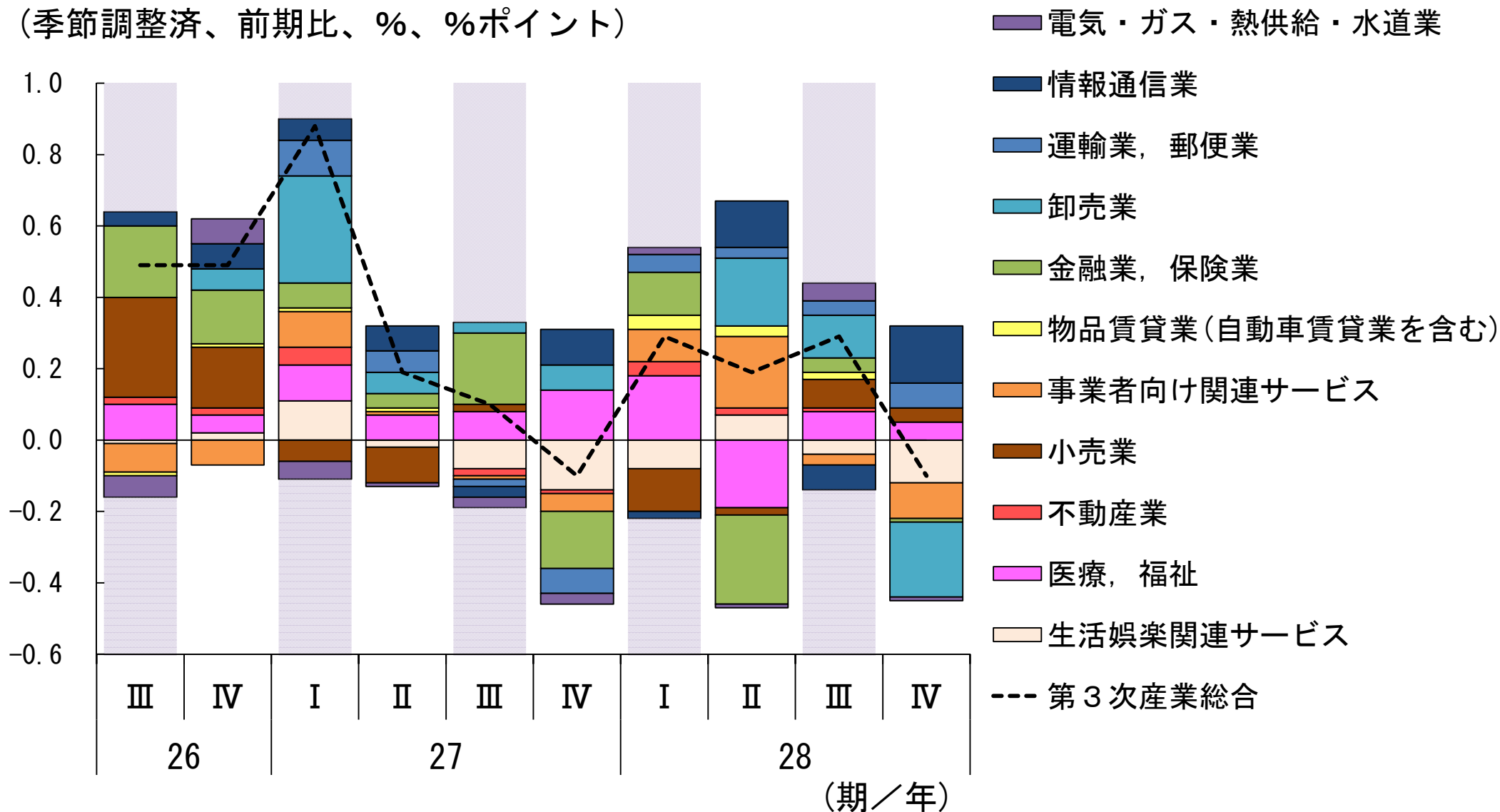
平成28年10-12月期の第3次産業活動指数の状況

指数名	指数水準	前期比(%)	指数の動き	過去の水準
第3次産業活動指数	104.0	-0.1	4期ぶりの低下	平成28年4-6月期の103.8以来
卸売業、小売業除く第3次産業活動指数	106.5	0.3	2期ぶりの上昇	平成22年基準で最高水準
対個人／対事業所サービス活動				
広義対個人サービス	104.8	0.3	2期連続の上昇	平成28年1-3月期の105.2以来
広義し好的対個人サービス	101.0	0.3	2期ぶりの上昇	平成27年7-9月期の101.6以来
広義非選択的個人サービス	107.6	-0.2	2期ぶりの低下	平成27年4-6月期の107.4以来
広義対事業所サービス	103.6	0.0	横ばい	-
消費向け／投資向けサービス活動				
消費向けサービス	104.8	0.3	2期連続の上昇	平成28年1-3月期の105.2以来
投資向けサービス	100.9	-0.6	2期連続の低下	平成28年1-3月期の96.8以来
観光・飲食関連産業活動				
観光関連産業	106.2	0.9	2期ぶりの上昇	平成22年基準で最高水準
飲食関連産業	100.4	-0.7	2期ぶりの低下	平成23年7-9月期の100.3以来
製造依存型／非製造依存型サービス活動				
製造業依存型サービス	97.4	-0.2	2期ぶりの低下	平成28年4-6月期の95.9以来
非製造業依存型サービス	105.7	0.4	3期連続の上昇	平成20年7-9月期の106.4以来
形態別サービス活動				
インフラ関連型サービス(試算値)	108.0	0.7	2期連続の上昇	平成22年基準で最高水準
財の取引仲介型サービス(試算値)	98.4	-0.4	3期ぶりの低下	平成28年4-6月期の98.2以来
生活関連型サービス(試算値)	107.1	-0.3	2期ぶりの低下	平成26年10-12月期の106.2以来

第3次産業活動指数前期比 業種別の影響度合い

・平成28年10-12月期の第3次産業活動指数は、情報通信業などが上昇したものの、卸売業などが低下したため、前期比-0.1%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

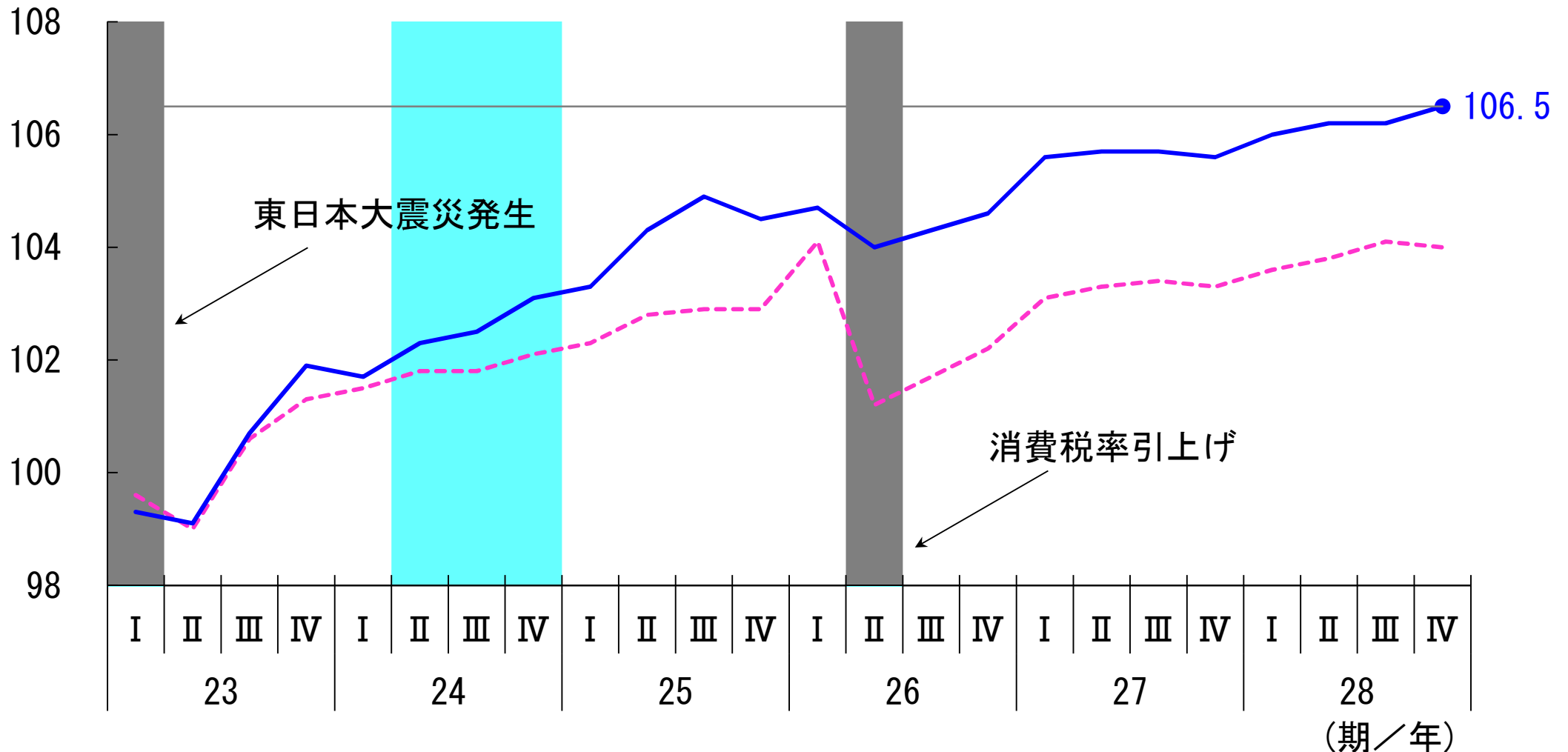
卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数

・平成28年10-12月期の卸売業、小売業を除いた第3次産業活動指数は、106.5(前期比0.3%)と2期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)

--- 第3次産業総合

— 除く卸売業、小売業



(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業活動指数を大きく動かした個別系列

		業種名	前期比	寄与率
○ 第3次産業総合を低下方向へ引張った3業種の中で低下への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	卸売業	- 1.5%	- 214.1%
	内訳業種	鉱物・金属材料卸売業	- 5.9%	- 135.0%
		化学製品卸売業	- 5.1%	- 37.2%
	2位の業種	生活娯楽関連サービス	- 1.1%	- 128.0%
	内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	- 36.0%	- 161.9%
		冠婚葬祭業	- 5.5%	- 36.3%
3位の業種	事業者向け関連サービス	- 1.3%	- 104.9%	
内訳業種	土木・建築サービス業	- 14.1%	- 170.1%	
	廃棄物処理業	- 1.8%	- 17.6%	
○ 第3次産業総合を上昇方向へ引張った3業種の中で上昇への影響度が大きい内訳業種	1位の業種	情報通信業	1.5%	169.4%
	内訳業種	ソフトウェア業	4.8%	129.5%
		移動電気通信業	1.4%	38.3%
	2位の業種	運輸業, 郵便業	0.8%	76.4%
	内訳業種	宅配貨物運送業	6.1%	41.9%
		一般貨物自動車運送業	0.7%	20.9%
3位の業種	医療, 福祉	0.3%	49.4%	
内訳業種				

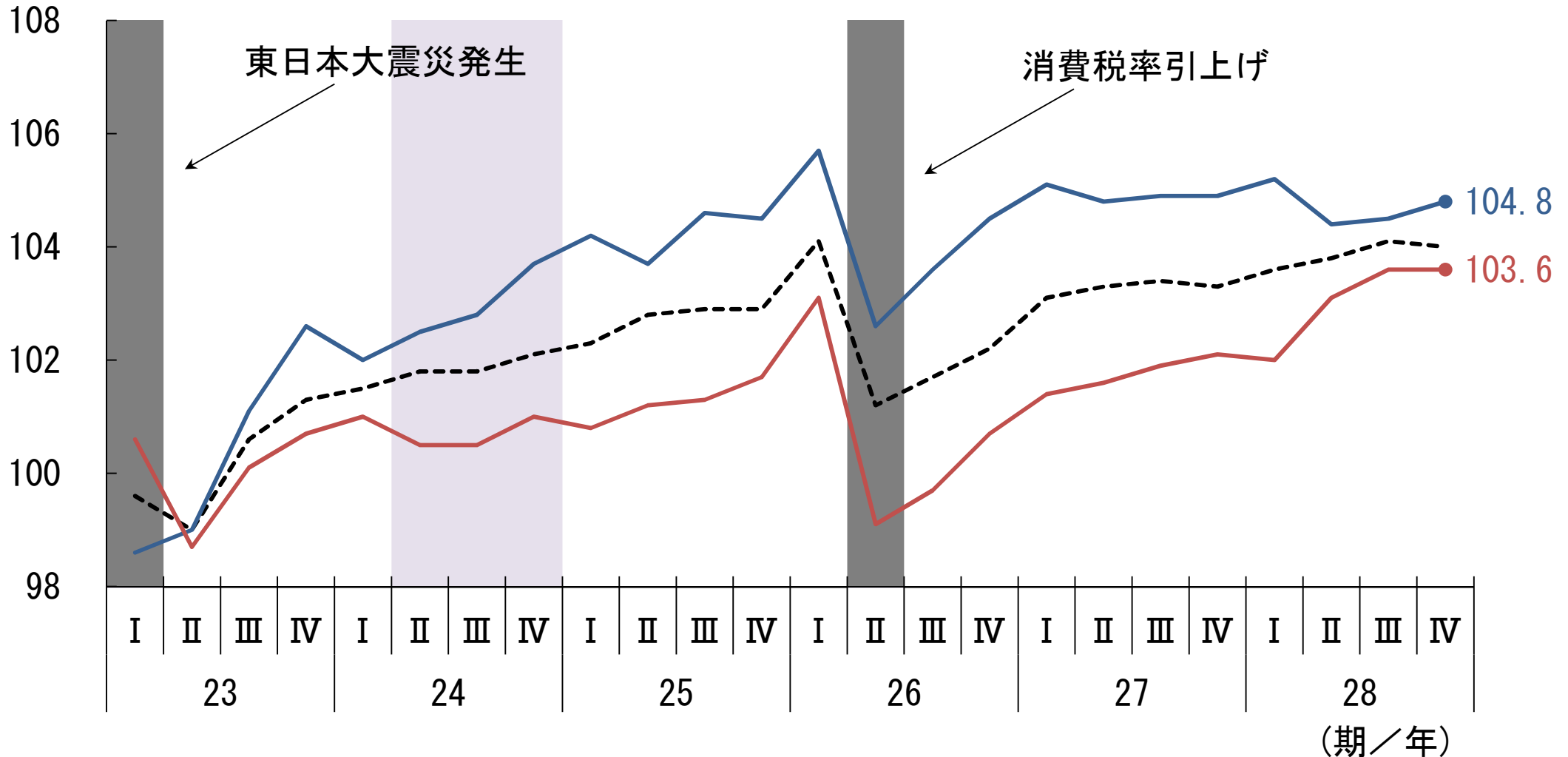
寄与率：第3次産業全体の変動に対して影響を及ぼした、各業種の影響の度合い全業種の寄与率を足すと、当月が上昇なら100%、低下なら-100%になる。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対個人サービス／広義対事業所サービス活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期の広義対個人サービス活動指数は、104.8(前期比0.3%)と2期連続の上昇。
- ・広義対事業所サービス活動指数は、103.6(前期比0.0%)と横ばい。

(22年=100、季節調整済) --- 第3次産業総合 — 広義対個人サービス — 広義対事業所サービス

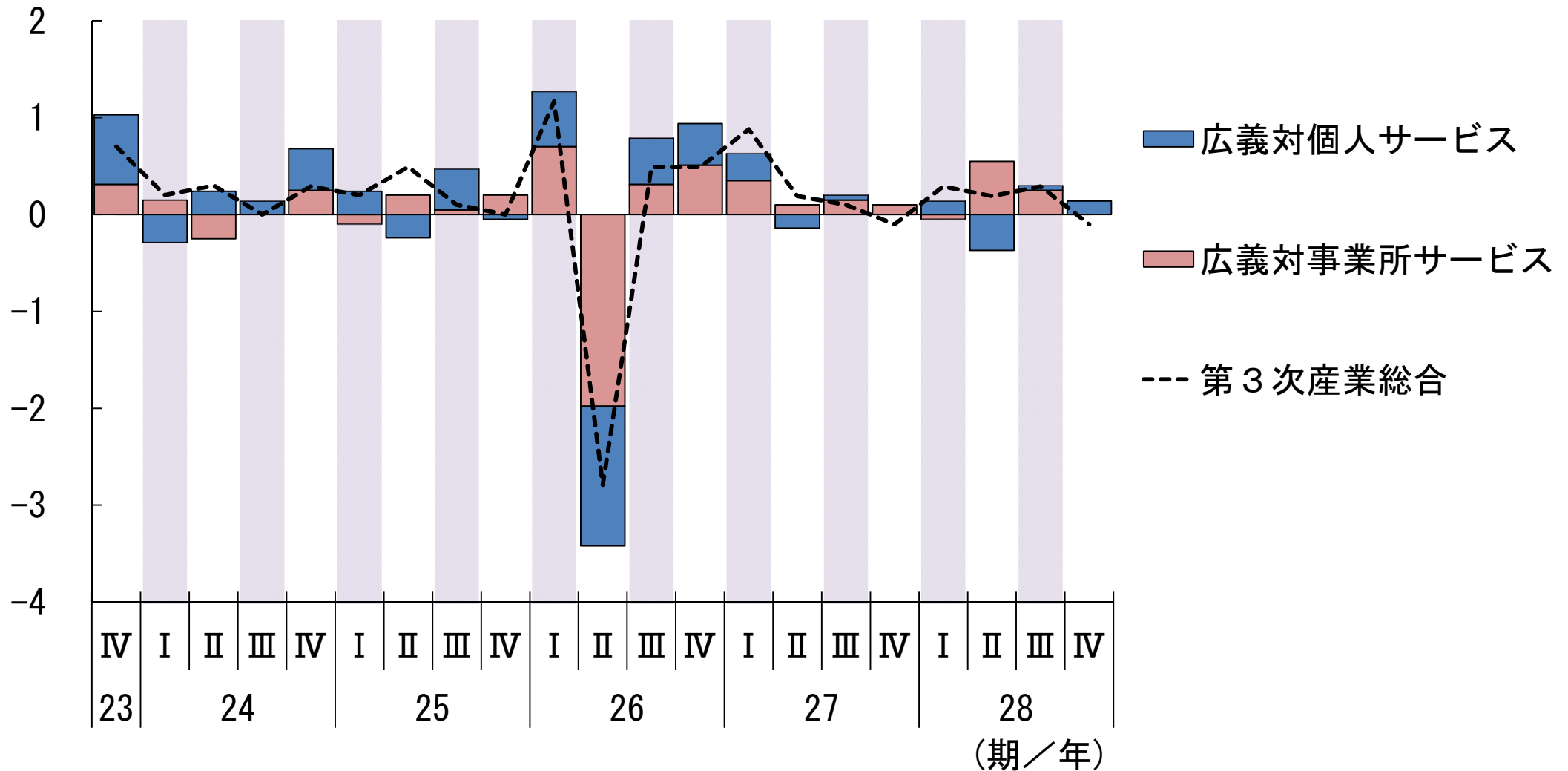


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

第3次産業総合前期比 広義対個人／広義対事業所サービスの影響度合い

- 平成28年10-12月期は、広義対個人サービス活動指数が小幅上昇、広義対事業所サービス活動指数が横ばいとなった。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

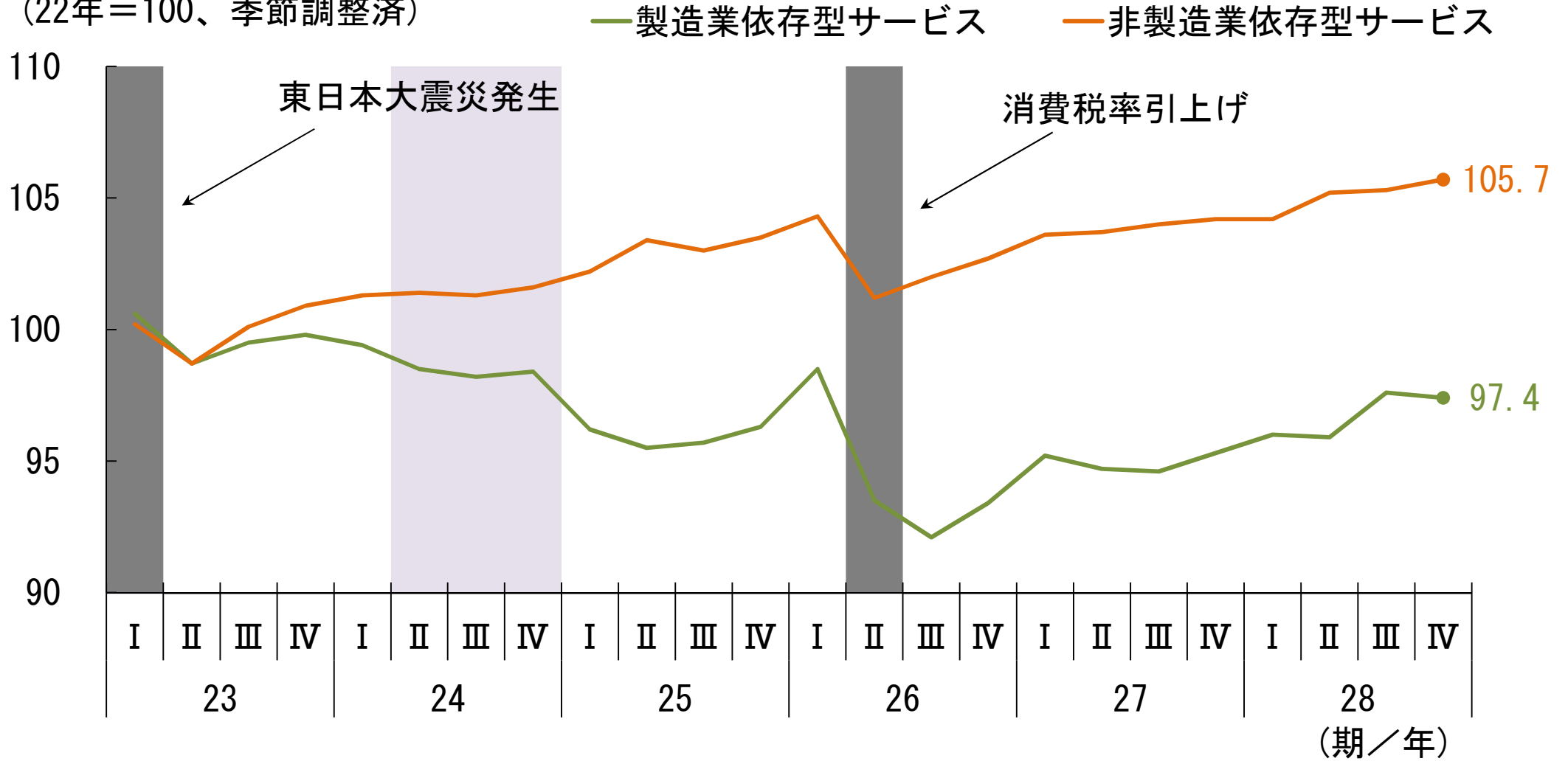


(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

製造業／非製造業依存型 事業所向けサービス活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期の製造業依存型サービス活動指数は、97.4(前期比-0.2%)と2期ぶりの低下。
- ・非製造業依存型サービス活動指数は、105.7(前期比0.4%)と3期連続の上昇。

(22年=100、季節調整済)



(注)1. 広義対事業所サービスの内訳系列を、産業連関表の製造業と非製造業の投入比率の大小により、「製造業依存型」と「非製造業依存型」の二つに分類している。
2. 紫色のシャドー部分は景気後退局面。

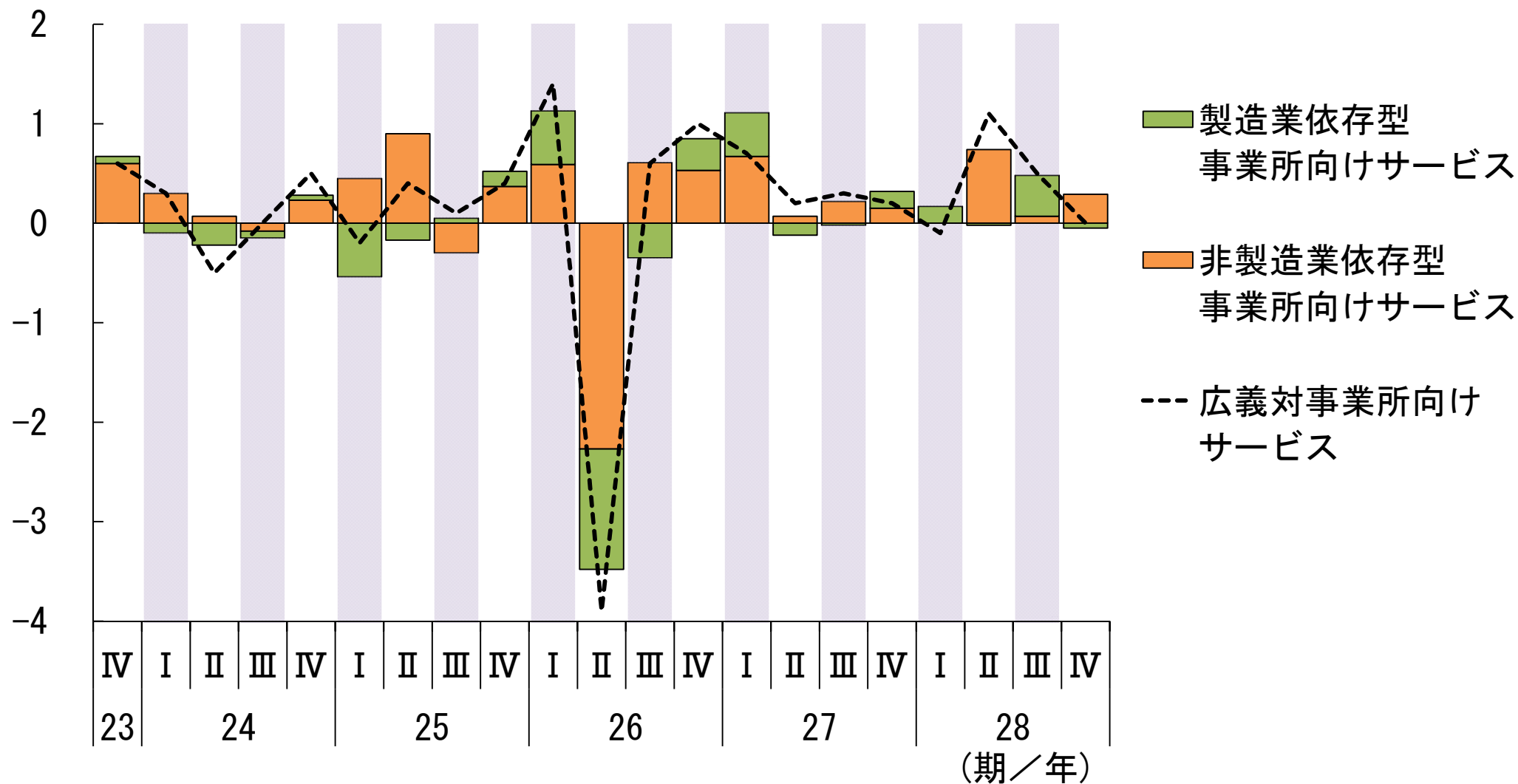
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対事業所向けサービス活動前期比

製造業／非製造業依存型事業所向けサービス別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の広義対事業所サービス活動指数は、製造業依存型事業所向けサービスが低下したものの、非製造業依存型事業所向けサービスが上昇。

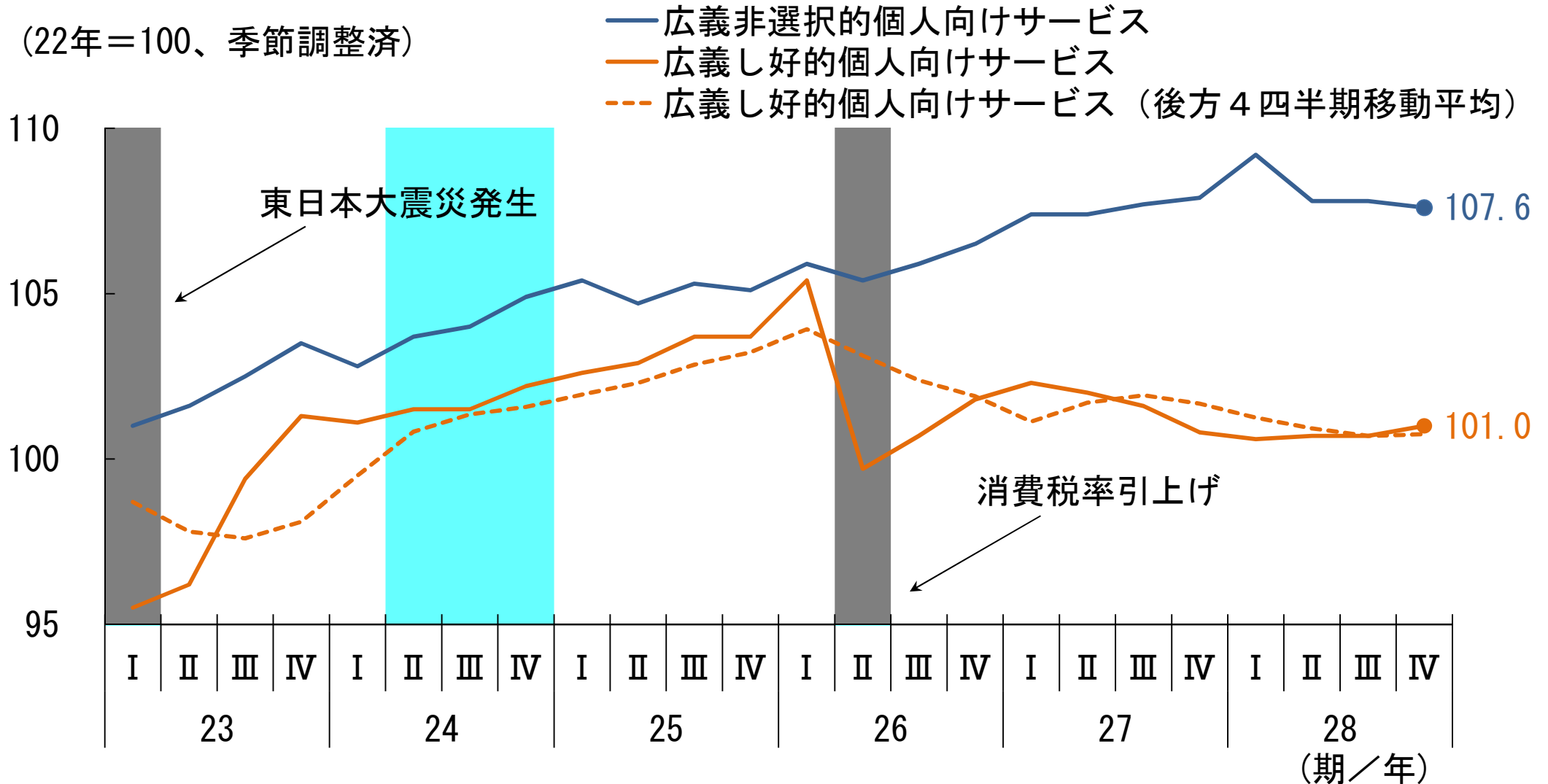
(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



非選択的／し好的 個人向けサービス活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期の広義非選択的個人向けサービス活動指数は、107.6(前期比-0.2%)と2期ぶりの低下。
- ・広義し好的個人向けサービス活動指数は、101.0(前期比0.3%)と2期ぶりの上昇。

(22年=100、季節調整済)



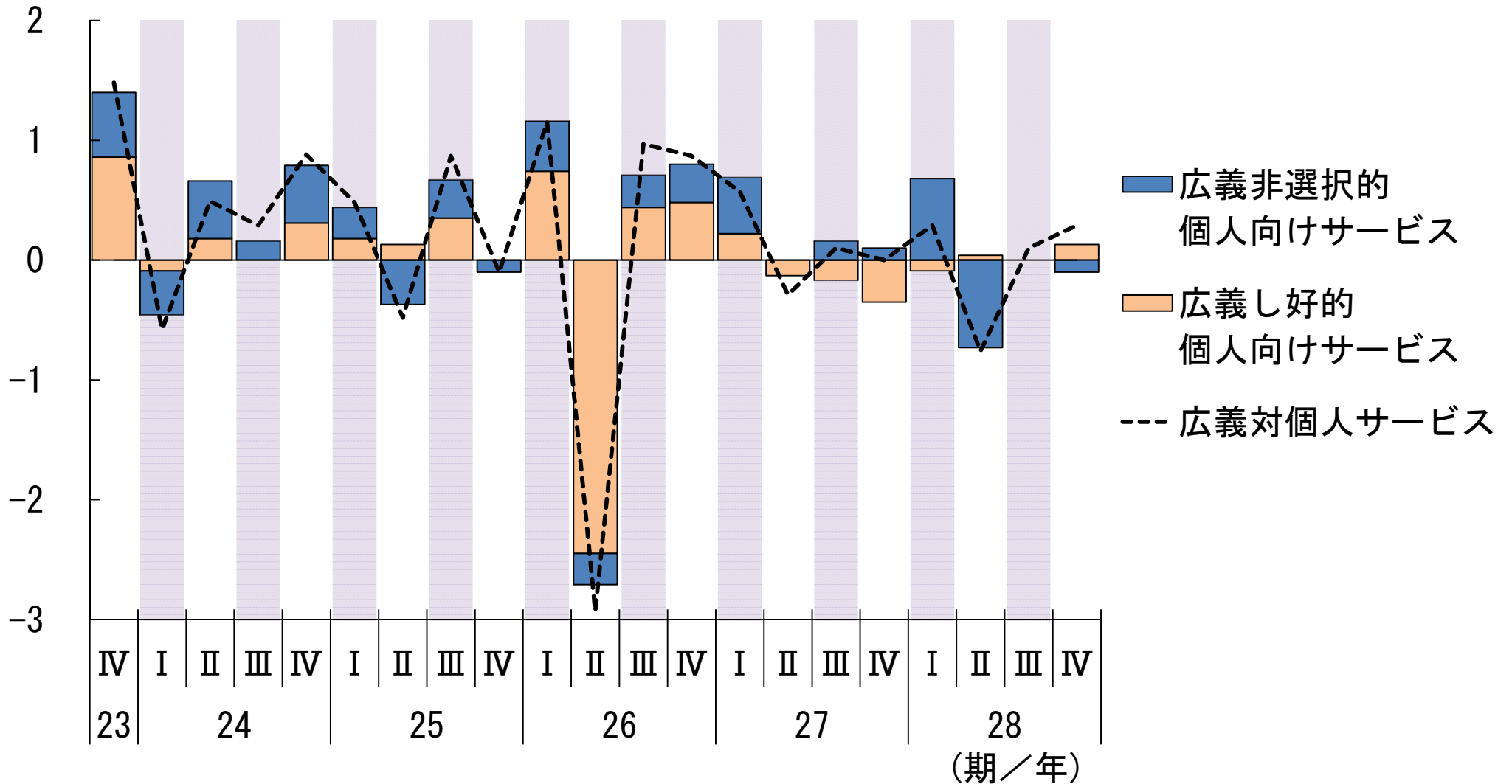
(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対個人サービス活動前期比

非選択的／し好的個人向けサービス別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の広義対個人サービス活動指数は、広義非選択的個人向けサービスが低下したものの、広義し好的個人向けサービスが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

広義対事業所サービス、し好的個人向けサービスを大きく動かした個別系列

	業種名	前期比
○ 広義対事業所サービスを 上昇 方向へ 引っ張った業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	全銀システム取扱高	3.2%
	流通業務	6.9%
	受注ソフトウェア	1.6%
	金融仲介業務	0.9%
	職業紹介・労働者派遣業	1.1%
○ 広義対事業所サービスを 低下 方向へ 引っ張った業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	建設コンサルタント	- 15.4%
	鉱物・金属材料卸売業	- 5.9%
	化学製品卸売業	- 5.1%
	各種商品卸売業	- 1.9%
	測量	- 20.6%

	業種名	前期比
○ し好的個人向けサービスを 上昇 方向へ 引っ張った業種の中で 上昇への影響度が大きい内訳業種	ゲームソフト	32.1%
	食堂, レストラン, 専門店	2.1%
	ホテル	5.0%
	その他の小売業	1.5%
	織物・衣服・身の回り品小売業	3.4%
○ し好的個人向けサービスを 低下 方向へ 引っ張った業種の中で 低下への影響度が大きい内訳業種	プロスポーツ(スポーツ系興行団)	- 36.0%
	結婚式場業	- 12.3%
	ゴルフ場	- 4.0%
	戸建住宅売買(近畿圏)	- 7.7%
	理容業	- 4.1%

消費向け／投資向けサービス活動指数の動向

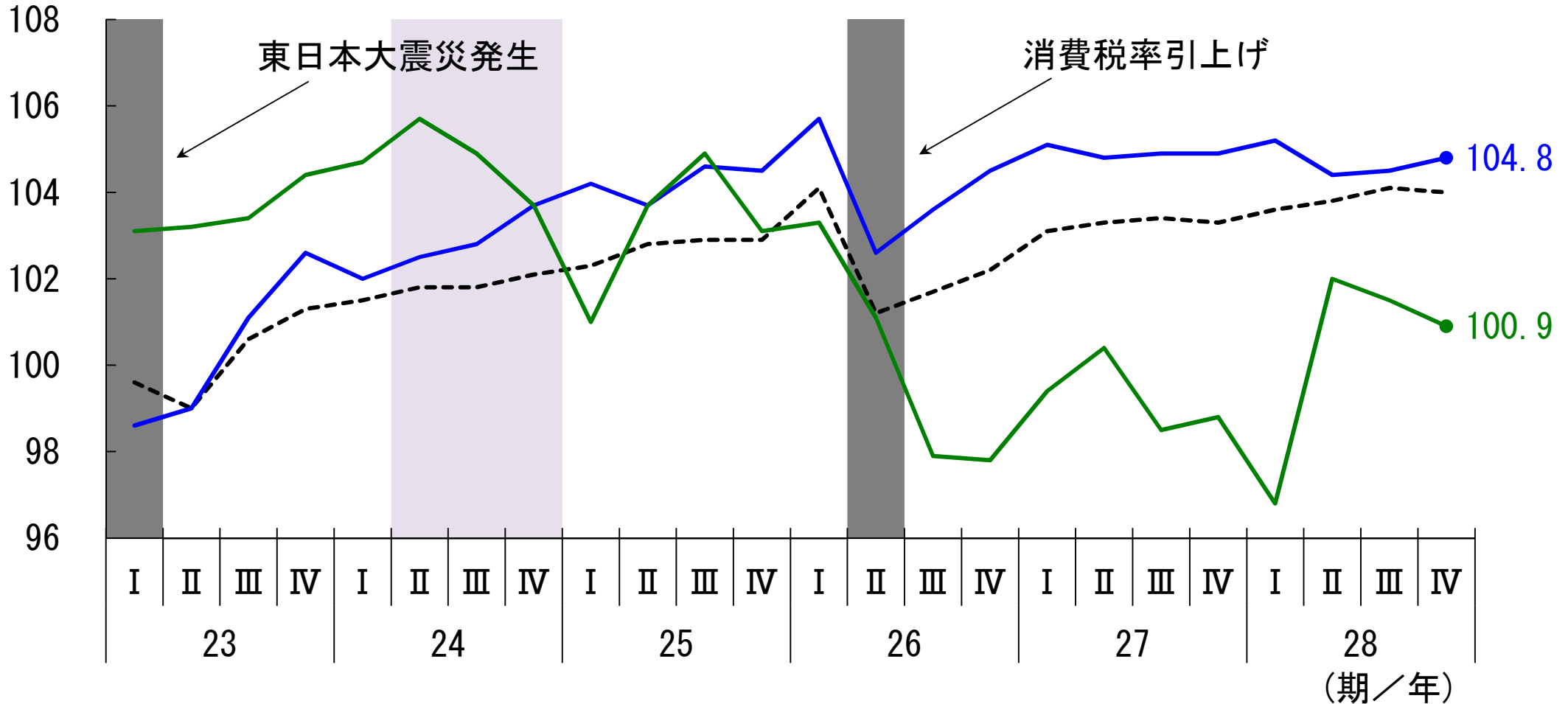
- ・平成28年10-12月期の消費向けサービス活動指数は、104.8(前期比0.3%)と2期連続の上昇。
- ・投資向けサービス活動指数は、100.9(前期比-0.6%)と2期連続の低下。

(22年=100、季節調整済)

--- 第3次産業総合

— 消費向け

— 投資向け

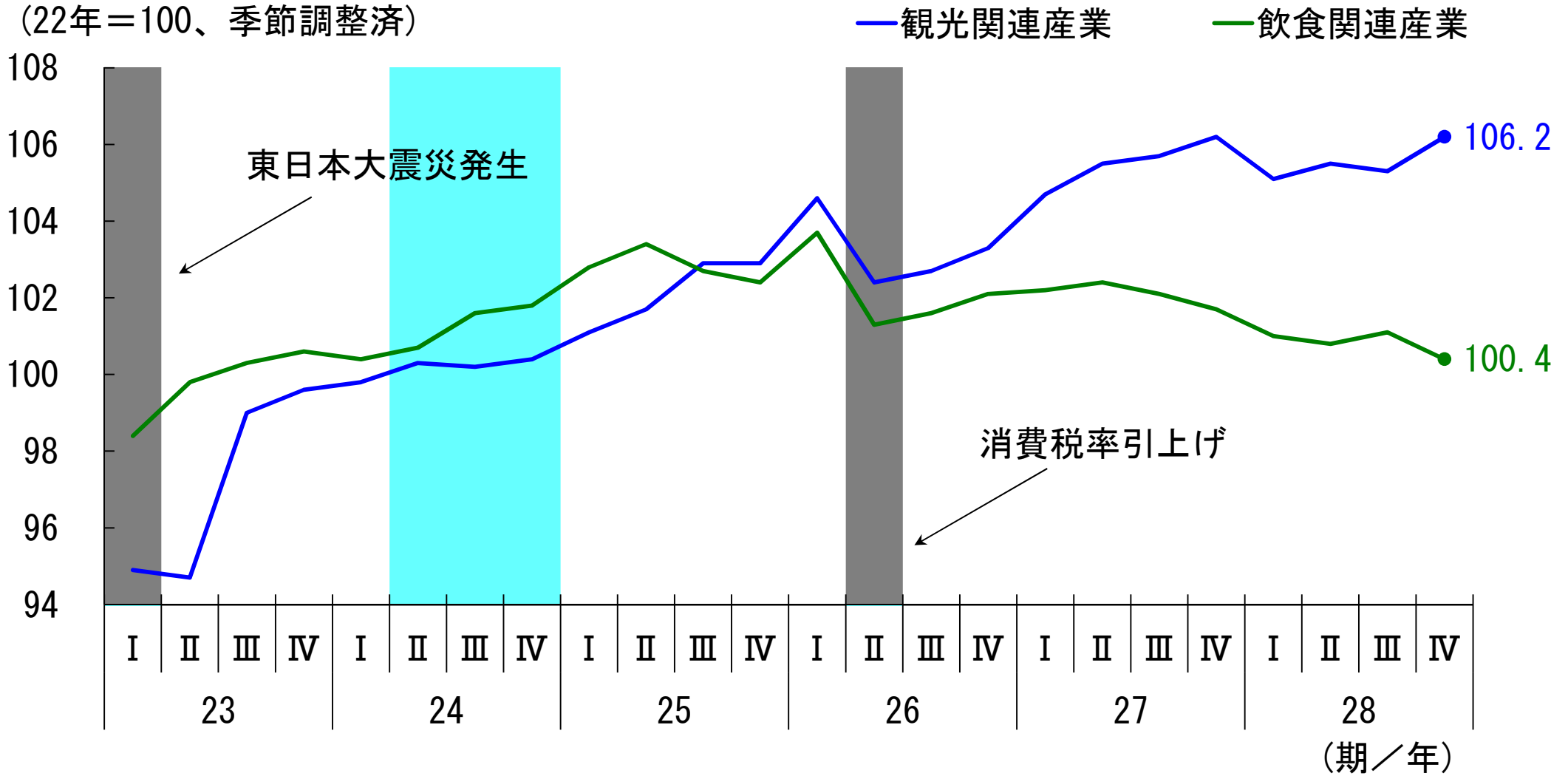


- (注) 1. 消費向けサービス活動指数は、非製造業から供給される個人消費関連のサービス(小売業や娯楽業など)の動きを表す系列。
 投資向けサービス活動指数は、非製造業から供給される民間企業設備関連のサービス(ソフトウェア開発、機械器具卸売業など)の動きを表す系列。
 2. 紫色のシャド一部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

観光関連産業活動指数、飲食関連産業活動指数の動向

- 平成28年10-12月期の観光関連産業活動指数は、106.2(前期比0.9%)と2期ぶりの上昇。
- 飲食関連産業活動指数は、100.4(前期比-0.7%)と2期ぶりの低下。



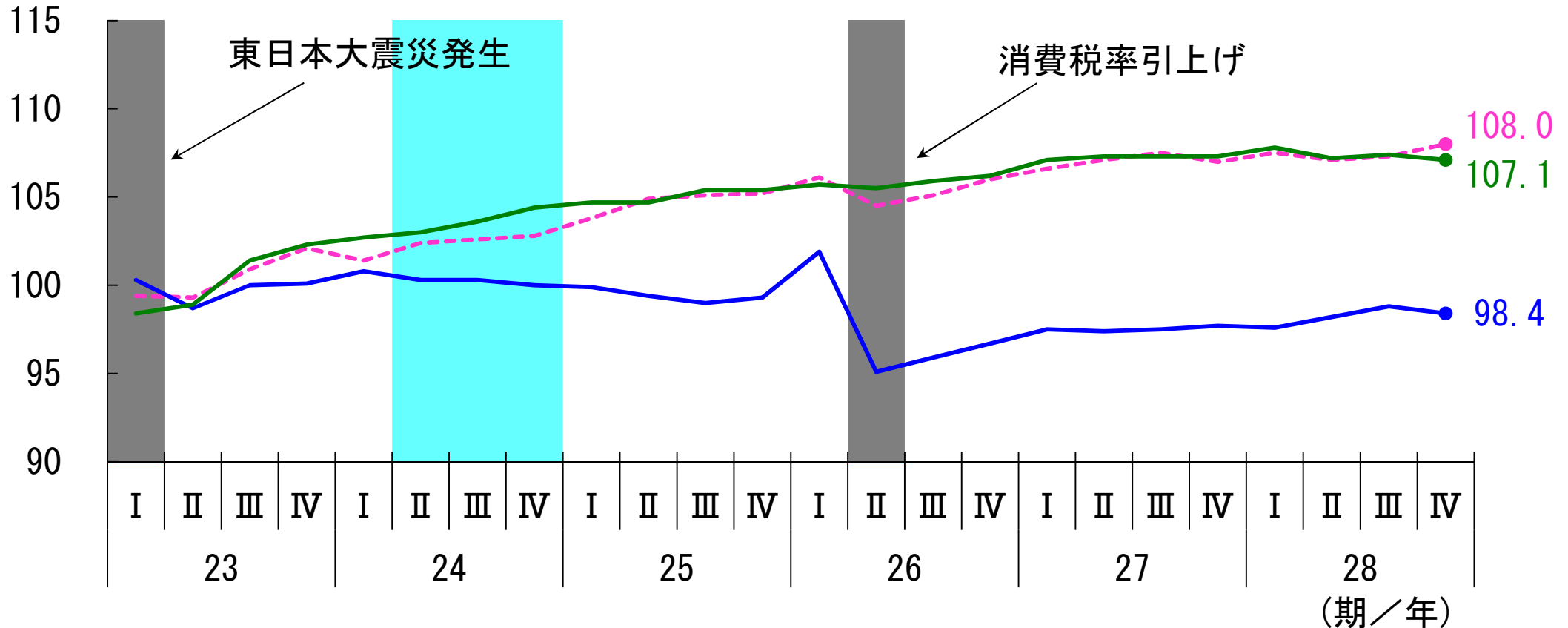
(注)1. 観光関連産業活動指数には、鉄道、バス、タクシー、飛行機、船舶等の旅客運送業、道路施設提供業(高速道路)、旅館、ホテル等の宿泊業、旅行業、遊園地・テーマパークが含まれる。
飲食関連産業活動指数には、デパート等の各種商品小売業(飲食料品部門)、飲食料品小売業、食堂、レストランやファーストフード等の飲食店、飲食サービス業が含まれる。
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

形態別にみたサービス活動指数の動向

- ・平成28年10-12月期のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、108.0(前期比0.7%)と2期連続の上昇。
- ・財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、98.4(前期比-0.4%)と3期ぶりの低下。
- ・生活関連型サービス活動指数(試算値)は、107.1(前期比-0.3%)と2期ぶりの低下。

(22年=100、季節調整済) --- インフラ(試算値) — 財の取引仲介(試算値) — 生活関連(試算値)



(注)1. インフラ型サービス活動指数、財の取引仲介型サービス活動指数、生活関連型サービス活動指数は、それぞれ下記大分類業種の季節調整済指数を各ウェイトで加重平均して算出した試算値。なお、第3次産業活動指数の11ある大分類業種のうち「事業者向け関連サービス」は、この3つの試算値には含まれていない。

・インフラ型サービス活動指数：電気・ガス・熱供給・水道業、情報通信業、運輸業、郵便業、金融業、保険業

・財の取引仲介型サービス活動指数：卸売業、物品賃貸業(自転車賃貸業を含む)、小売業、不動産業

・生活関連型サービス活動指数：医療、福祉、生活娯楽関連サービス

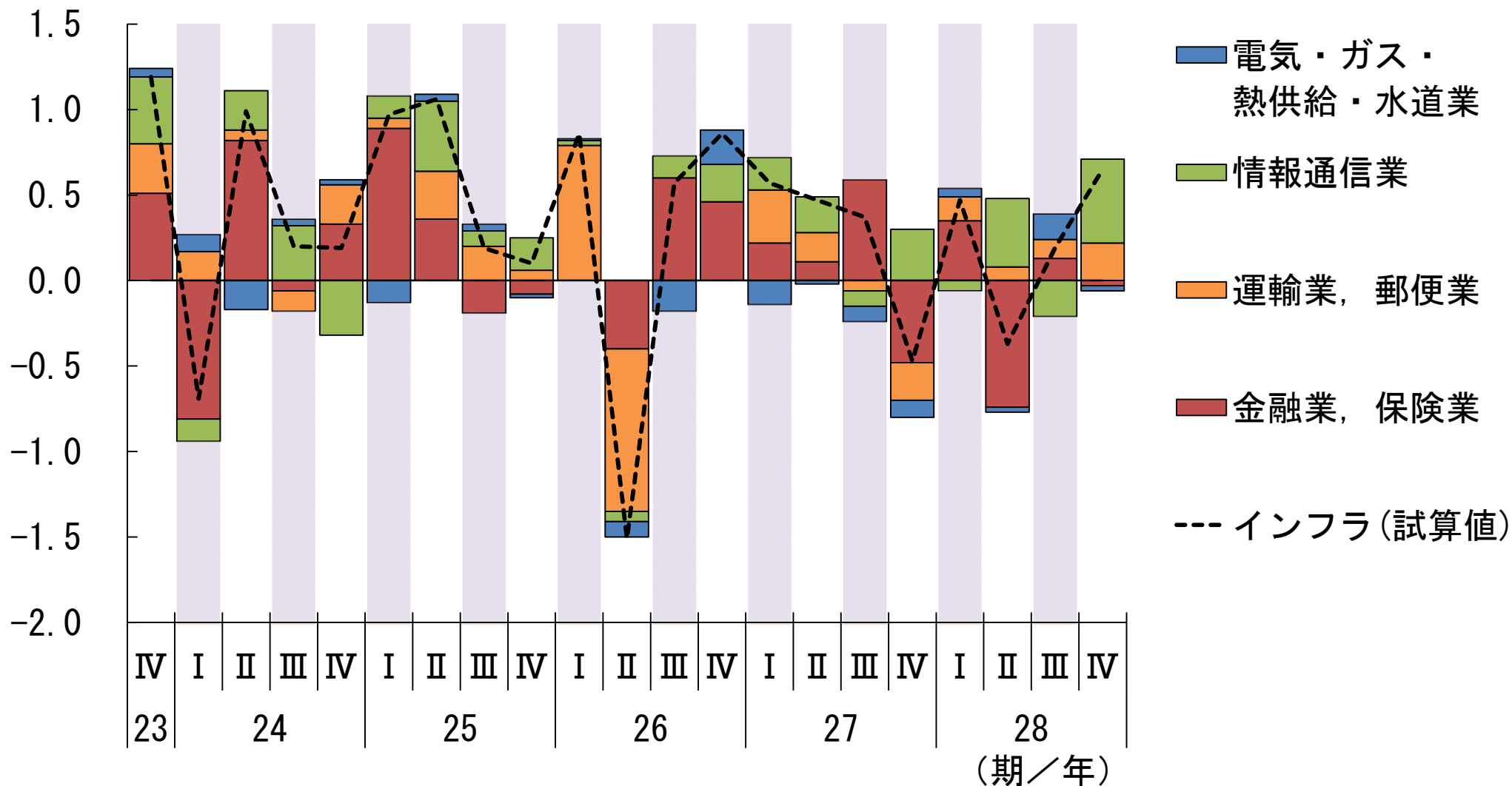
2. 水色のシャドー部分は景気後退局面。

(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

インフラ型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

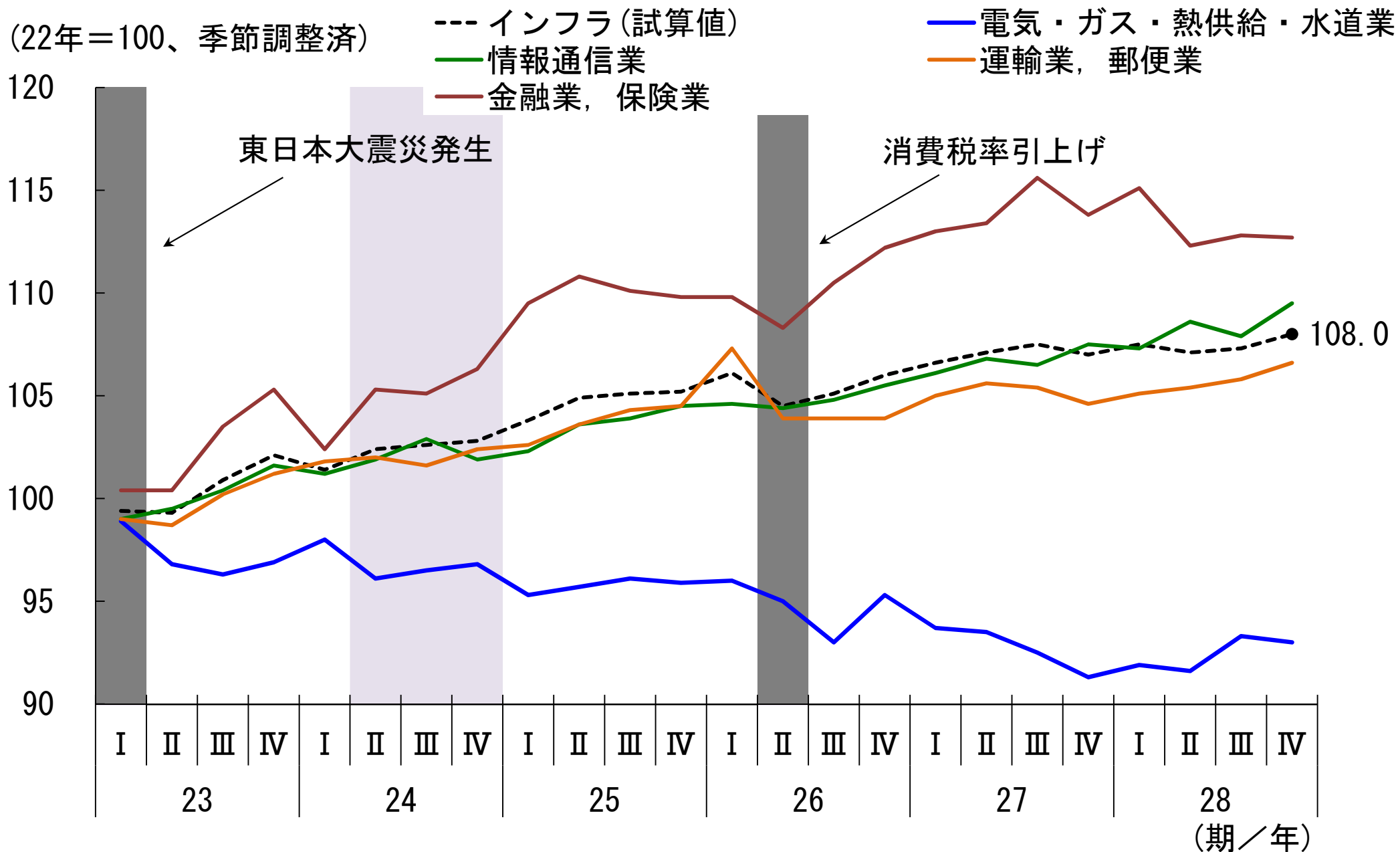
・平成28年10-12月期のインフラ型サービス活動指数(試算値)は、電気・ガス・熱供給・水道業などが低下したものの、情報通信業などが上昇。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

業種別に見たインフラ型サービス活動の動向

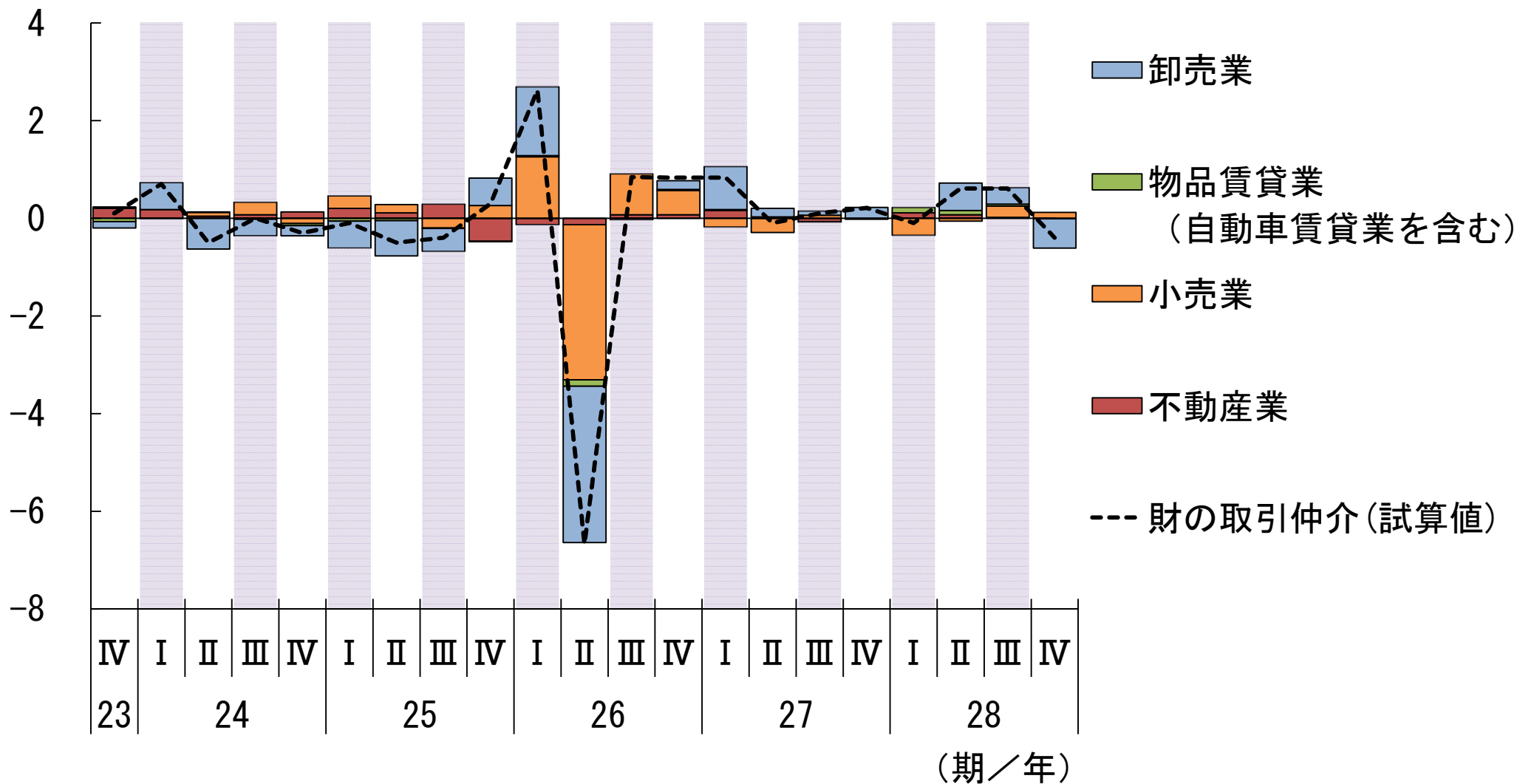


(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

財の取引仲介型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

・平成28年10-12月期の財の取引仲介型サービス活動指数(試算値)は、小売業が上昇したものの、卸売業などが低下。

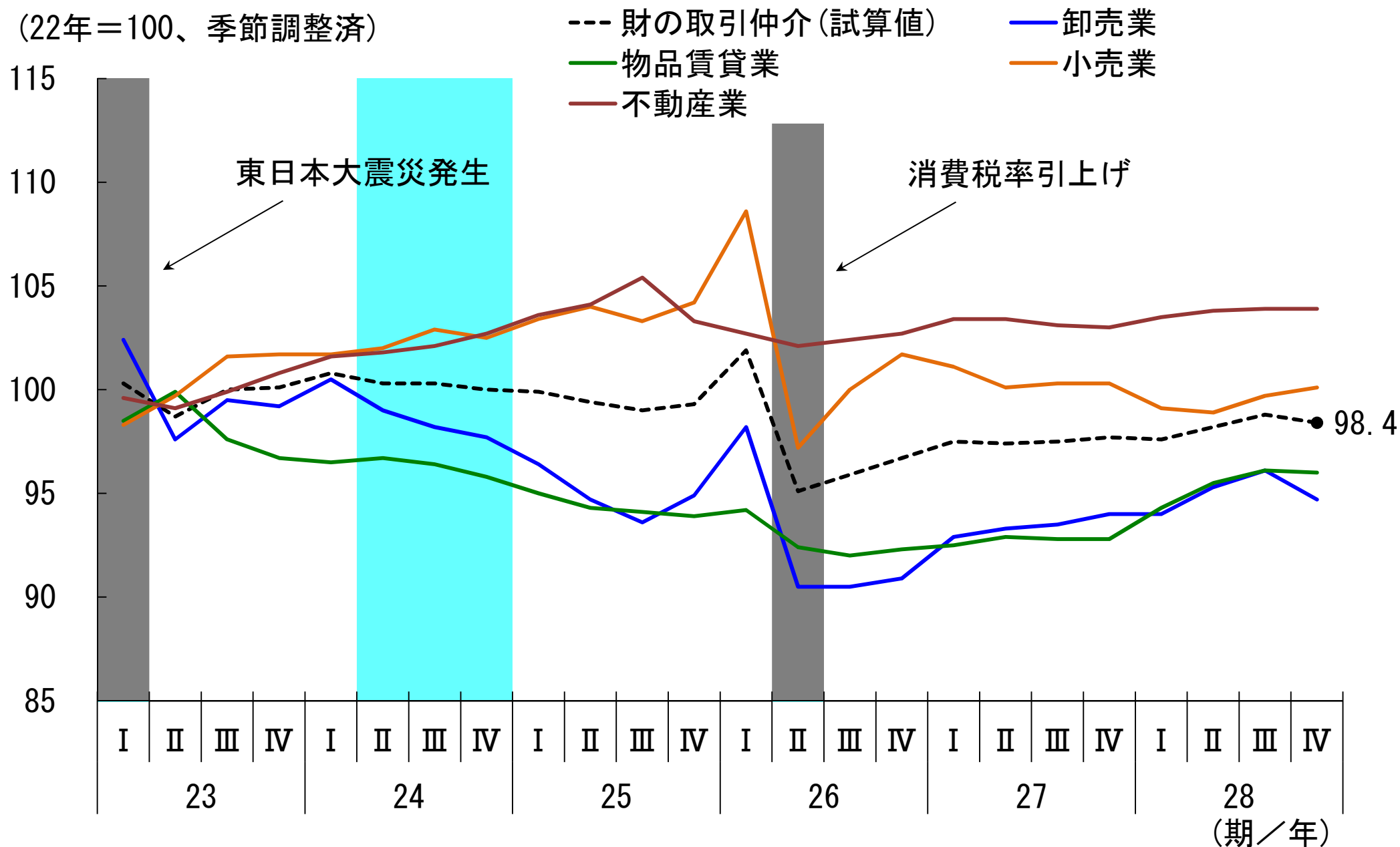
(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

業種別に見た財の取引仲介型サービス活動の動向

(22年=100、季節調整済)

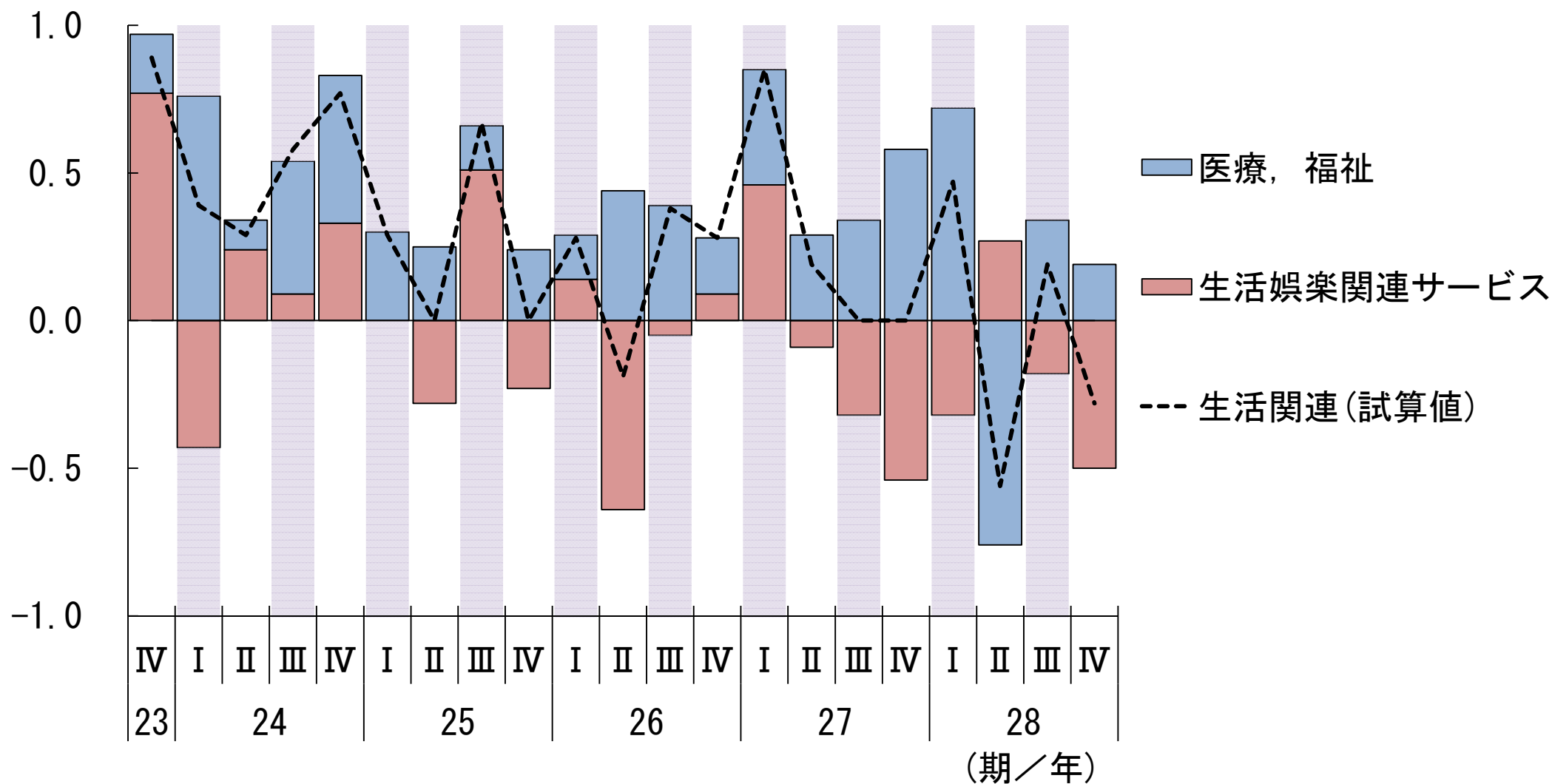


(注) 水色のシャド一部分は景気後退局面。
 (資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

生活関連型サービス活動指数(試算値) 業種別の影響度合い

・平成28年10-12月期の生活関連型サービス活動指数(試算値)は、医療、福祉が上昇したものの、生活娯楽関連サービスが低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)

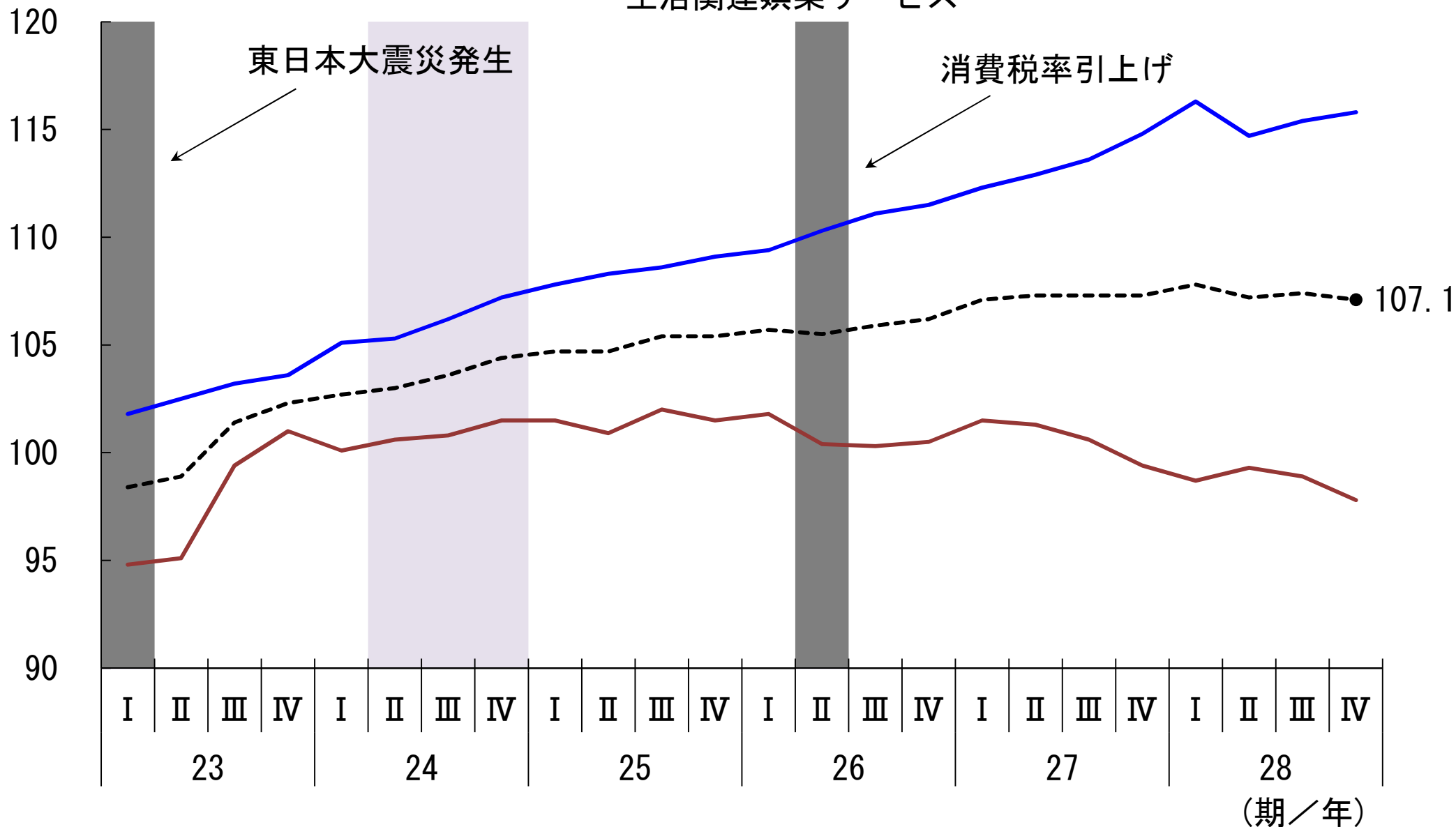


(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

業種別にみた生活関連型サービス活動の動向

(22年=100、季節調整済)

--- 生活関連(試算値) — 医療, 福祉
— 生活関連娯楽サービス



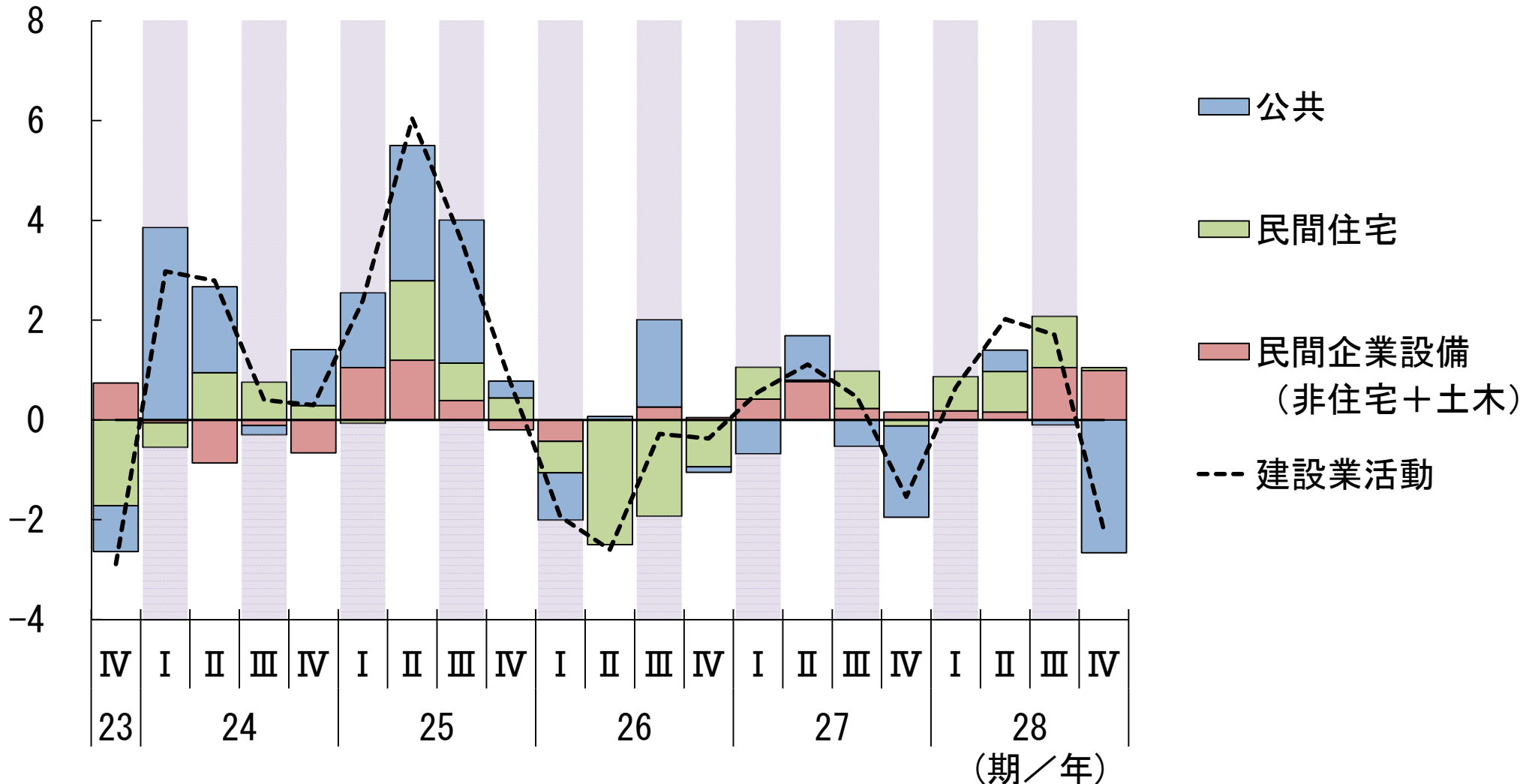
(注) 紫色のシャド一部分は景気後退局面。
(資料) 経済産業省「第3次産業活動指数」より作成。

建設業活動の動向

建設業活動指数前期比 部門別の影響度合い

- 平成28年10-12月期の建設業活動指数は民間企業設備（非住宅+土木）などが上昇したものの、公共が低下したため、前期比-2.2%の低下。

(季節調整済、前期比、%、%ポイント)



(資料) 経済産業省「全産業活動指数」より作成。

こちら是非御覧下さい！

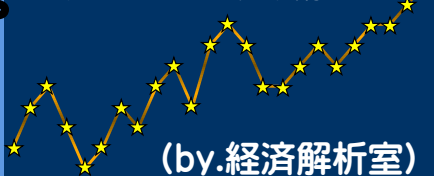
◎ ミニ経済分析：色々なテーマあります



ぜひお手持ちの電話で
QRコードを読み取って
下さい！！

◎ お役立ちミニ経済解説：
総合ポータルサイトです

お役立ちミニ経済解説



お役立ちミニ経済解説、
ミニ経済分析、動きで見る経済指標、
お役立ちミニ経済解説、
お役立ちミニ経済解説など